

第3章

生徒の活動



シンガポール海外派遣研修に参加して

1年 義基 舞

私は第2回農業高校生の海外派遣研修でシンガポールへ行きました。私にとってシンガポールは初めての海外旅行になりました。飛行機の中は、長時間いるにはとても良い空間が広がっていました。約7時間の後、シンガポールの大変大きなチャンニ空港に着き、市内をバスで移動しながらまず思ったことは、その緑の多さに驚かされました。日本で言えば、大きな植物園のようで、町のいたる所に木や花が植えられ、美しく整備された町全体が植物園そのもののようでした。そして、この研修中、日本では経験したことのない大粒の雨が、まるでホースで水を撒いているような状態で突然降り出した「スコール」を体験したことが、新鮮な驚きでした。また、この国は多国籍国家として有名で、インド人街、チャイナタウン、アラブ人街を見て回り、これだけ人種の違う人達が一緒に暮らしているからには、いろいろな問題があるのではないかと思いました。しかし、人々はお互いの文化を尊重しあい、私には平和に暮らしているように見えました。そして、文化の違いから料理の種類も豊富で、沢山の種類の食事を口にすることができました。特にアジア特有の細いパサパサしたお米が口に合わず、早く日本のご飯が食べたいと何度も思いました。その他にインド料理に使われている独特の香りのする香辛料も口に合わず苦労しましたが、それぞれの国の食文化に直接触れることができ、良い経験になったと思います。

また、マレーシアの国境越えもあり、文化体験でゴ

ムの木や伝統の楽器による演奏などを見ました。マレーシアにはイギリス人が建てた洋風のモスクがあり、その美しさには感動させられました。

農業関係の研修では、土を使わず野菜を宙に浮かせた状態で栽培する国土の狭いシンガポールならではの方法を見学しました。施設の中にはビニールハウスがあり、私達がよく食べる野菜が栽培されていました。その作物の種は、日本などから輸入されているそうです。



さらに、環境に関する研修では、シンガポールの環境省で、数年前までゴミがあふれていた街をどのように美しく生まれ変わらせたか、その後の対策などの政治的な話も聞かせていただきました。その中には、もう少し考えなくてはいけない事柄やとても参考になることもあり、日本ももっと自分たちの国の環境について、真剣に考え取り組むべきだと思いました。シンガポールと日本では、気候・文化など違う点がありますが、国際社会の一員としての国の一つの手本が、シンガポールにもあると思いました。そして、私はもう一度この国を訪れ、全てを見たいと思える充実した研修でした。



中央病院での体験学習

1年 吉岡 千夏

前期末の9月13日、私達1年生は「産業社会と人間」という授業の一環として、福祉体験学習をしました。いろいろな訪問先の中から、私は松任市内にある県立中央病院で体験学習をすることになりました。

病院では、担当の方が普段は絶対に入れないオペ室やカルテ室、注射器などを殺菌する部屋など丁寧な説明を加えながら案内していただきました。さらに、リハビリテーション室では、お年寄りなど身体の不自由な人達が実際にどれだけ実生活で苦労があるかを体感するため、車椅子に乗って左手足だけで操作する体験や、足をギプスのような物で固定して歩く体験、そして利き腕ではない方の手で豆を掴む体験などをさせて



もらいました。この体験をすることで、普段気にも留めていなかった身体の不自由な方々の大変さや辛さが少し分かるようになった気がしました。また、担当の方から病院内の様々なサービスについて説明も受けました。例えば、食事の際には必ず何か一言メッセージを添えることや、特別な日（敬老の日など）には、それを知らせるカードも準備してあるとのことでした。そして、特に衛生面では院内すべてに気配りがなされ、病棟が三角形の形に造られていることにより、どの病棟にも陽の光や風が入るように設計されているなど、環境全般にわたって細かい配慮がなされていることを知り、大変感心させられました。

普段何気無く利用している病院が、ここまで丁寧に私達利用者のことを考えてくれているということが分かっただけでも、この体験学習は有意義なものでした。

今回、病院という特殊な場所での体験学習でしたが、他の友人たちが体験した様々な施設でも実際に体験して、新しい知識と認識を得たいと思うようになりました。

吟詠剣詩舞の活動について

3年 松田今日子

本校には、吟詠剣詩舞の部活動はありませんが、郊外での活動として、剣詩舞の活動に取り組んでいる生徒が2名います。

そこで今回は、その中の1人、3年の松田さんに、剣詩舞の活動について振り返ってもらいました。

詩吟は、日本人の心を磨く古典芸能として今日まで引き継がれてきたものです。

詩吟と漢詩の鑑賞は難しいところがあります。伝統芸術である詩吟や剣舞をとおして、日本人の礼節と深い精神性に触れると共に、吟題に登場する様々な風土や歴史とそこに生きた心情を体感できるものだと思ひます。

詩吟や剣舞の練習で難しいのは、その時代に生きた心情や風土を知り、それを、詩吟や剣舞で表現することにあります。コツコツと何度となく練習することで、少しずつ理解し、上達していったような気がします。

こうして練習してきた成果を県内・県外などの大会で発表します。色とりどりの着物を着て、詩吟や剣舞で表現します。

全国高等学校文化祭に2回も出場し、今年度は、学校の文化祭にも出場でき、剣詩舞を多くの人に見てもらいました。とても嬉しかったです。

部、同好会活動以外での本校生徒の活躍

【吟詠剣詩舞】

石川県高文連邦楽合同発表会（7月28日）

石川県女性センター

出場者 松田今日子（3F）、西 恵美（3H）

全国高等学校総合文化祭

福岡大会（8月6日～8日）

福岡県飯塚市 嘉穂劇場

出場者 松田今日子、西 恵美

農業クラブ全国大会
クラブ員代表会議に参加して

3年 立山 陽子

クラブ員代表者会議に参加するにあたって、課題レポート、学校PRチラシ、そして名刺作りの3つの課題がありました。中でも、課題レポートを作るのに苦労しました。分科会は第1～第3の分科会があり、それぞれの分科会のテーマについて考えを書かなくてはならなかったからです。文が続かなかったり、内容があってなかったり、何度も作り直しました。作るのに結構時間がかかり大変でしたが、出来上がった時は、

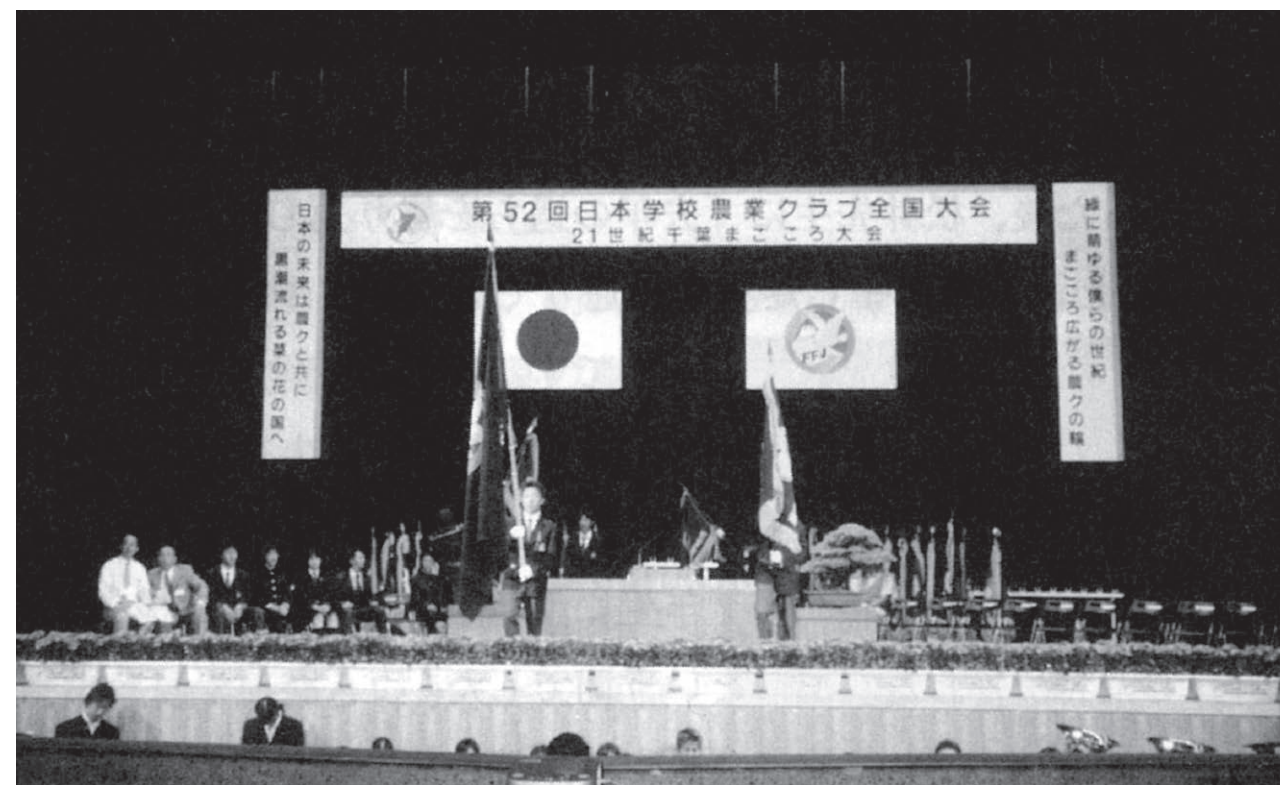


達成感がありました。

10月24日に行われた代表者会議では、それぞれのテーマごとに分かれて討論会を行いました。私は、第3分科会の「21世紀に対応した新しい競技には、どのようなものがあるか？」という題で、他県の代表者と討論しました。初めは、知らない人ばかりでしたが、名刺交換をしてから話すとしやすくて討論が楽しく思えてきました。

東京都立園芸高校では、新しい競技をしてみようということで、他の農業高校の人達とケーキ作りコンテストをしてみたいという発表がありました。私達の学校でも、今まである競技以外のことをしてみたらもっと農業が楽しくなるのではないかと思います。また、環境問題について対策を考え、新しい競技をつくってみれば良いと思いました。

クラブ員代表者会議に出席して、他県での数多くの新しい競技を知ることができ、本校でも、もっと農業クラブ役員が中心となり新しい競技を作り、学校の行事にしたいと思いました。今まで、他県の学校がどのような活動をしているか一つも知らなかった私はとてもいい経験ができました。それと、私が討論会で意見を言えたことと、ちゃんと話し合いができたことがいい思い出になったと思いました。



韓国 修学旅行

3日目 (10月24日 木曜日)

学校交流

修学旅行第3日目、10月24日は学校交流でした。
水原農生命高等学校は、我校と同じく農業高校です。
温室内の花（レモングラスなど）、盆栽などがよく見
られた。韓国の生徒は前もって日本語を勉強してくれ
ていた。けれど会話するのに苦労し、英語やジェスチ
ャーでコミュニケーションをとる事が多かったです。

【交流の感想】

- 制服のスポンを足首の部分で細めるのが流行。
- 日本と同じでやっぱりBOAが人気だった。
- 韓国の人は無愛想ってイメージしてたけど、高校生
は積極的でとてもフレンドリーだった。
- お互いの言葉は分からなかったけど、逆にそれでお
互いの気持ちを分かろうとする事で、交流がかなり
深まったと思います。
- 農業高校だけに、翠星高校と施設が似ていると思っ
た。

学校交流はやはり、言葉が通じないので難しい。し
かし、気持ちがあれば無理なことはない。最後には結
構仲良くなれたのでOKでしょ。

言葉をもっと覚えていけばよかった。そうすればも
っと楽しめたはず……。



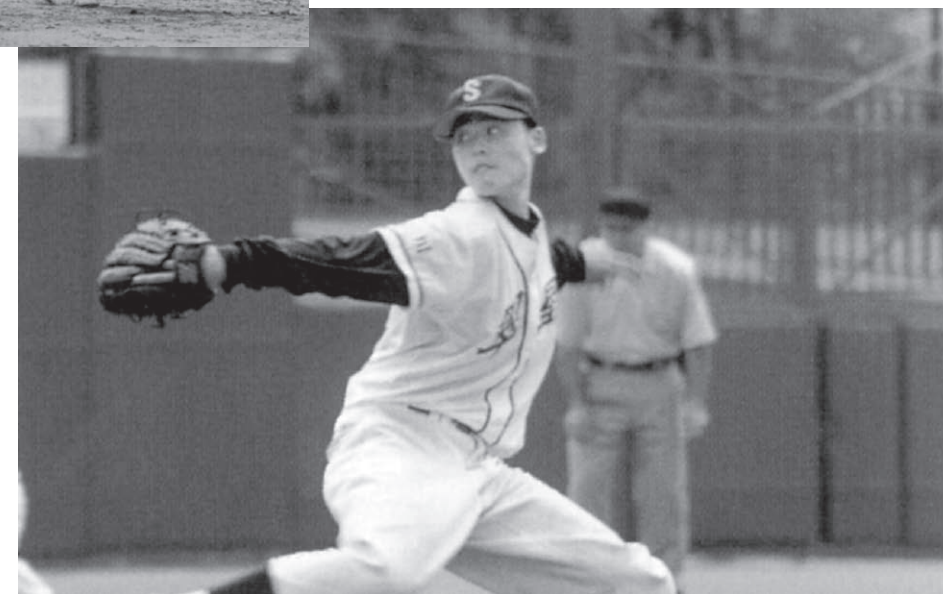
高校野球から学んだこと

3年 加野 大樹

僕は高校野球を3年間続けてきて、様々なことを体
験した。中でも3年生の春夏の大会が一番印象に残っ
ている。

春の大会では僕が先発を務め、1・2回戦をコールド
で勝ち進み、3回戦の遊学館に挑んだ。結果は負け
てしまい悔しかったが、公式大会での2勝に、これま
での練習の手応えを感じ、次の大会に向けて頑張ろう
と決意した。

夏季大会での対戦相手は金沢西高校だった。高校生
活最後の大きな大会に、僕の気持ちは高ぶり、とても
緊張していた。先発を務め、4回まで抑えたが、その
後ジリジリと点を取られていった。相手チームに点が入
るたび、チームの雰囲気がいっしょにより大きく変動す
るのを感じ、重たいプレッシャーとなった。そんな時、
チームメイトの励ましが本当に心強かった。5対2で



敗れた時は悔しくて「これが最後の高校野球だ」と思
って涙がこぼれた。

僕は3年間、毎日ハードな練習を積んできた。練習
をキツイと思ったことはあったが、嫌だと思ったこと
は一度もない。野球ができなくなることは、自分にと
って想像以上に辛いことだと実感した。大会が終り、
僕が高校野球の優秀選手に選ばれたことを知り、とて
も驚いた。優秀選手の表彰式に出席し、ゴールデンボ
ールと表彰状を手にした時、あの夏の大会で味わった
悔しさや、一生懸命練習した日々のがよみがえっ
てきた。野球をやっている辛いと思ったことや悔しい
と思ったことは沢山あったが、その辛さも含めて野球
を続けてきて良かったと思えたし、自分は本当に野球
が好きなんだと改めて思った。

野球は僕に様々なことを教えてくれた。目上の人
に対しての礼儀、自分に厳しく接することの大切さ、仲
間の素晴らしさ。そして一つのものに集中し、それを
やり遂げる精神力も野球を通して育てることができ
た。僕はこれから先も野球を続けていきたいと思っ
ている。続けるからにはプロ野球で活躍できる選手を目
指すつもりだ。高校野球で学んだことを胸に、夢を叶
えるために一生懸命頑張っていきたいと思う。

演劇部

演劇部は、筋肉トレーニング・ストレッチ・発声などの基礎訓練とエチュードといった演技のトレーニングを中心に部活動を行っています。

春と秋には県全体での講習会があります。その講習会では演技力を上げるためのプロの指導・トレーニング方法や新しいミニゲームの紹介があります。また、



講習会に参加しているメンバーで台本を読み、芝居を作って上演するという事をしています。

夏には合同発表会がファーストステージ・セカンドステージと開催され、みんな、中部大会出場を目指して上演します。本校は、今回、生徒創作「メビウスの輪～The Endles Love Story～」を上演し、上の大会であるセカンドステージに進む事ができました。

8月には、中部6県の演劇部生徒によるワーク・ショップ（能登演劇堂）にも参加し、演出・演技の勉強をしました。



文化祭では、生徒創作「風鈴」と「アラビアンナイト・赤い砂漠の伝説」を上演し、クリスマス公演では1・2年生でサンタクロースを題材とした劇を作り、上演しました。

1月～3月までは、演劇の基礎となる稽古や早口言葉などの発音・発声、前に述べた基礎トレを中心とした部活をして夏の大会にむけて力をつけていこうと思います。

農業クラブ
県連会長として

3年 高村 和宏

私は、高校2年生のとき、農業クラブ役員になりました。それからの1年は、やること全てが始めてのことで、なにをして良いのかわからず戸惑ってばかりいました。

ときには、先輩達の足を引っぱったりもしました。私はそんな何も出来ない自分が嫌いでした。何も出来ない自分が惨めで情けなくて悔しかったです。そんな自分を強くするために、最も大変な役割である会長になろうと思い、3年生のときに会長に自ら立候補し、



農業クラブの石川県連盟会長となったのです。

会長となってからは毎日が大変でした。不運なのか幸運なのか、今年は、北信越大会の事務局も兼ねていたので、前年よりもスケジュールが詰まっていたので、みんな焦っていました。8月21、22日の北信越大会までに、校内リーダー研修会、春季代議員会、県連リーダー研修会、校内大会、県連大会の、5つの仕事をこなさなくてはなりませんでした。

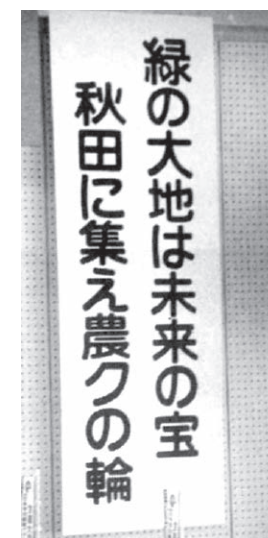
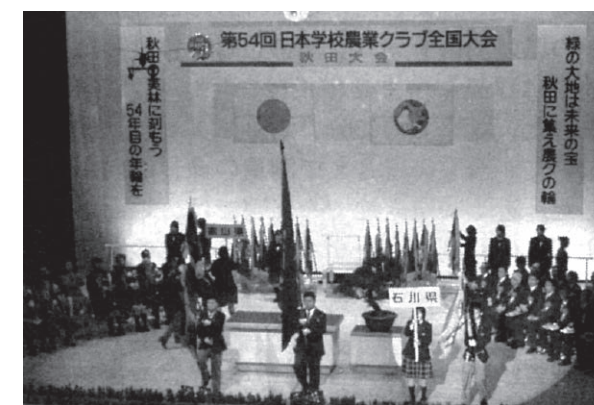
私は途中何度も挫折しそうになりましたが、きまつて仲間が頼りない会長を支えてくれました。彼らの存在が私にとって、頼りであり、希望でありました。

月日は流れ、5つの仕事は全て難く終わらせることができました。そして、いよいよ北信越大会が目の前に迫ってきました。

大会3週間前ぐらいから、ほぼ休みなしで学校に行き、大会準備をしていました。私の仕事は、当日の開会挨拶及び閉会挨拶、それと代議員会の原稿作りでした。

私はこの大会で、プロジェクト発表の選手でもあったので、農業クラブと、プロジェクトの両立が難しく、

大会の準備に遅れが出て来ていました。連日のハードスケジュールに全員疲れがたまっていました。それでも、大会の日はどんどん近づいてきました。そして当日になりました。準備は、なんとか間に合いました。準備にあれほど時間を費やした大会は、あつと言う間に時間は流れ気がつけば終わっていました。この大会でさらに仲間との信頼関係がよくなりました。北信越大会を終えて、大切なものをまた一つ手に入れたように思いますし、自分自身とても自信ができました。大変でしたけどその体験が今では貴重な財産です。

秋田大会
スローガン

食と農のゆめ・みらい作文コンクール

主催 北陸農政局

作文の部 最優秀賞【北陸農政局長賞】

地域型農業を活かした農業経営

3年 藪野 慎介

金沢市窪町は加賀野菜の一つタケノコの産地で、私の家も曾祖父の代からタケノコを栽培する兼業農家です。幼い頃から農作業に行く父に付いていき、タケノコ掘りなどの手伝いをするようになり、自然と農業に興味を持てるような環境で育ちました。将来私は父の後を継いで、専業農家になろうと思っています。私と同じバイオサイエンス系（栽培系）で学んでいる20名のうちで、農学部への進学を考えている私を含めた3名以外は農業以外の業種に就職や進学を希望していて、自営を目指しているのは私ただ1人です。農業を学んでいるのにどうして自営や関連産業に就かないのかを聞いてみると、「求人がほとんどない」「趣味で栽培するのはいいが職業としてやりたくない」「大変そうだ」などの声が返ってきました。彼らと私の違いは非農家で、子どもの頃からの農業体験がほとんどないことがあります。「農業を知れば知るほど大変さだけが焼き付いてくる」と話してくれた人がいました。タケノコ栽培も大変な状況にありますが、経営計画を考えていく上で課題研究で知った金沢市農産物ブランド協会の活動とインターンシップで知った農業法人の経営を元にあれこれ考えています。

金沢のタケノコは江戸時代から始まり、積雪の下で水分を十分吸って芽生えるので味は良質で、現在も東京の築地市場で高評価を得ています。私の住む富樫地区は明治初期頃から栽培が盛んになった地域です。父の子供の頃は、山の麓でタケノコを作り、斜面を利用して果樹を栽培し、平地で稲を栽培する、地形を活かした農業を行っていました。しかし、宅地開発によっ



て農地は団地となり、新しい人たちが移り住んでくるに従い、農家も農地を手放し安定した収入が入るサラリーマンになる人が増え、農村から金沢のベッドタウンになってしまい、農村のまとまりがなくなっていました。それによって竹林の手入れが行き届かなくなり、タケノコの質が低下し量も減ってしまいました。良質のタケノコを栽培するには、除草や日当たりをよくするために細い竹や余分な竹を伐採したり、古い親竹を若い竹に更新したり、施肥など意外に多くあるのです。以前、竹林の手入れは地域ぐるみで行っていましたが、農家戸数の減少で個別に行うようになり、手入れ不足となったり、放置された竹林が増え竹の繁殖が環境問題にまで発展しているところもあります。

金沢にはタケノコのように地域の風土をいかして栽培されてきた独特の野菜がいくつもありました。しかし、食生活の変化や均一規格の大量流通、工業などの第二次産業への労力の移動によって、栽培が衰退し、数件の農家で細々と栽培するようになった野菜もあります。こんな金沢市の特産農産物の良さを見直し、生産振興と消費の拡大を目標とした金沢市農産物ブランド協会が平成9年に設立されました。この協会は流通業者、消費者、農業団体、生産者、行政が一体となり、さつまいも、ヘタ紫なす、加賀太きゅうり、金時草、たけのこなど15品目を「加賀野菜」として認定し、品質の良い物には認定シールを貼って消費者へ積極的な消費宣伝などを行っています。その甲斐があって消費量が伸び、生産量が増大する野菜や栽培が復活しつつある野菜もあります。

私はこの夏、学校の近くの農業法人のインターンシップ（就業体験実習）を1週間行いました。その会社は五戸の農家が結集して法人化し、現在は20名の従業員で稲作をベースに野菜栽培や餅、漬物加工を行い、売上高4億2千万円にまで拡大しています。ベテランの技術力と若手のパワーや発想を融合して、農家のようにあれもこれもするのではなく分業化によって、非農家出身でもサラリーマン農業ではなくプロの農業士目指して取り組めるような組織となっていました。勧められるまま参加した実習でしたが、社会の変化に対応した農業経営の形を体感することができました。



どこでも同じような味の野菜が栽培されるようになり、製品化された均一な味から、郷土料理、味の違い、地域の食文化が見直される今日、その元になる郷土野菜の供給が農業の使命になります。しかしー農家で専業経営を考えていたのでは限界があり、これまでの農業のように、朝から晩まで働きつめの職業になってしまいます。経営にあたっては共同経営で分業組織とし、農地近辺の地域住民との関わりを大切にし、消費につなげる加賀野菜ブランドの活用など、計画の柱が立ちました。地域の風土を活かした金沢タケノコを地域の人たちとのつながりを大切にして生産していきたいと思います。



インターンシップを終えて

2年 菅上 悟之

今回体験したインターンシップは、池田造園という造園業者さんにお世話になりました。

緊張から始まったインターンシップ初日は、午前中あいにくの雨でした。そこで、会社や仕事の説明を受けた後、ロープワークの実習を始めました。久しぶりの男結びは、記憶があやふやで、最初はうまく出来ませんでした。しかし、指導者の方に指の動かし方や、かたく結ぶための方法を教えていただき、ゆっくりではあるもののとてもうまく結べるようになりました。その後、池田造園の職人さんたちが手がけた庭園見学を行いました。午後からは少し晴れてきたので歩道の掃除をすることになりました。範囲が広くてすごく大変でした。これで1日目が終了しました。

2日目は、そんなに緊張はしませんでした。実習は、民家の生垣の剪定をさせてもらいました。これでもかというくらい伸びた枝は1日で終わるのかという感じなくらいに思いました。しばらくして、トリマーという機械を使わせてもらいました。トリマーは、刈り込みバサミを使うよりとても早く刈り込むことができました。午前中で横がだいたい終わりました。午後からは上の刈り込みでした。上は切った枝が落ちないので、落すのが少しやりにくかったです。後は、刈り込みの微調整を行い、切った枝の掃除をしましたが、

これがすごく大変で一番疲れました。そして休憩後、後片付けを行い、完全に終わりました。終了後の綺麗になった生垣を見たとき、とても達成感があつたので嬉しく思いました。



3日目は芝刈りの予定でしたが、雨が降り、とても残念でした。午前中は造園資材を整理する実習で、平板運びをしました。午後は現場に行き、剪定した枝を掃除する実習をしました。その時、職人の方から「松の枝と他の枝は分けて掃除しなさい。」と言われました。なぜかと思っていると「松は油が出るので、他の木と分けて出さないと処理されない。」と言われました。枝はいろいろな所に落ちていて、特に木の下にもぐりこんで掃除をするのが大変でした。最後の休憩で、職人の方から「男結びをしてみろ。」と言われて、出来るか少し不安になったが、何とか出来たので良かったと思いました。そして休憩が終わるとそれと同時に3日目の仕事も終わりました。

今、振り返っても、とても大変な3日間でした。しかし学校では学べない、仕事をする事の難しさや大変さが少しわかった気がします。この先、進路を考える上で、今回のインターンシップの体験を通して学んだ事を生かしていきたいと思います。



生徒会活動を通して学び得たこと

3年 山本 玲

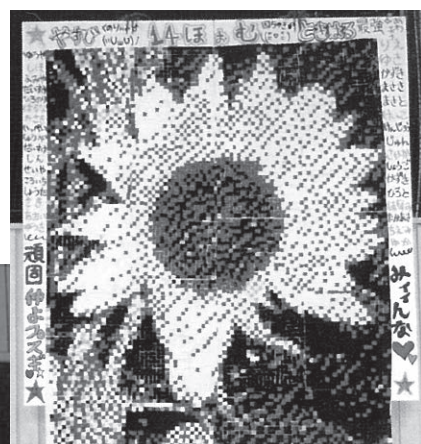
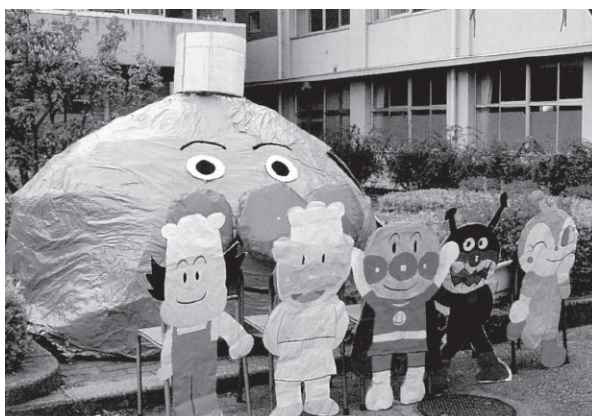
前期の生徒会活動は、あいさつ運動、募金活動などのボランティア、そして3年生メンバー最後の活動、文化祭の運営が主な活動でした。

あいさつ運動は、昨年からやっているの、始めたころにくらべ、生徒みんなが元気にあいさつをしてくれるようになったと思いました。

募金などのボランティア活動で、アピタの前で大きな声を出して募金をお願いするのは、はじめ少し恥ずかしさがありましたが、だんだんと楽しくなってきて、たくさんの方が募金してくれたのがとても嬉しかったです。他にボランティア活動として、白山市が行ったスポーツ大会のお手伝いとして参加しました。出場者の方は、知的障害者の方がほとんどで、1人に対しボランティアが1人ついて、参加する種目の補助を行いました。話をうまくできない人もいて、コミュニケーションをとるのにとても苦労しました。

文化祭では、後期の役員と一緒に運営をし、昨年の文化祭よりも楽しくなるように頑張りました。3年生メンバーは、昨年の文化祭にも実行委員として参加している人ばかりで、先輩たちの働きを見ていたので、自分たちも「頑張らなくちゃ!!」という気持ちでした。

生徒会活動は私たちにとってとても良い経験になり、思い出になりました。

第49回全国学芸科学コンクール
自然科学研究部門 金賞 受賞

バイオサイエンス研究会顧問 宮下 正司

バイオサイエンス研究会2年次生の池松俊哉君、岡田龍君、原田梓さん、番作真一君、平松将宏君の5人は、旺文社主催、内閣府、文部科学省後援の「第49回全国学芸科学コンクール」において、金賞並びに特別賞を合わせ4賞を受賞しました。

コンクールには、全国の小中高から「科学」「アート」「文芸」の3分野、11部門に約8万8千点の応募がありました。このうちの「科学」分野、「自然科学研究」部門で金賞の栄誉に輝きました。

バイオサイエンス研究会では、過去に、銀賞、銅賞を受賞しており、今回3度目の挑戦で最高賞の金賞を射止めました。これは、創立130周年を迎える本校にとって、大変な栄誉であり、大きな励みとなりました。

研究は、これまで先輩達が取り組んできたエビネの研究を引き継ぎ、新たにシュンランの研究を加えて発表したものです。生徒たちは、入学当初から積極的に研究に取り組んでおり、その研究活動が高く評価されました。なお、表彰式は、3月10日に東京で行われます。

受賞の喜び

2年 原田 梓

バイオサイエンス研究会では、8年前からエビネの増殖に関する研究に取り組んできました。自然豊かな石川県でも絶滅が危ぶまれるエビネ。また自生はみられるものの個体数の減少が懸念されるシュンラン。農業高校生として、野生ランを絶やさないために何かできることはないかと考え、5人で力を合わせ、研究を重ねてきました。

この2年間の研究は苦勞の連続でしたが、顧問の先生をはじめ、県立大学の先生方、農業総合研究センターの方、野生ラン愛好家の方など、たくさんの先生方にご指導とご助言をいただき、栄えある金賞の受賞となりました。今後も後輩達と研究を続け、環境や食料といった諸問題にも真摯に取り組み、研究に励んでいきたいと思っています。

最後になりますが、校長先生をはじめご指導とご支援をいただいた先生方に感謝申し上げ、喜びの言葉といたします。ありがとうございました。



第57回日本学校農業クラブ全国大会（愛媛大会） ～最優秀賞 文部科学大臣賞 受賞～

「蘇れ！里山の自然」

3年 池松 俊哉

私が里山を守りたいと考えるようになったのは、小学5年生の夏、県の自然博物館「ねいの里」を訪れ、里山の成り立ちの話を伺ったことからでした。里山では、薪や炭を得たり、落ち葉を利用したりするために、間伐や枝打ち、下草刈りなどを行ってきました。それによって、光の差し込む地表では花が咲き、それを求めて昆虫や動物などが生息し、新たな生物群落が形成された、安定した二次林となっているのです。つまり、人間と野生生物が共存してきた環境のことです。しかし、近年石油エネルギーへの転換や、過疎化と土地所有者の高齢化が原因で里山の放置が目立つようになり、たくさんの動植物の生息が危ぶまれていることを知りました。幼い頃から動植物が好きな私は、胸が痛くなりました。

「たくさんの生き物が生息できる里山を蘇らせたい」という思いから、県が育成するジュニアナチュラリストに応募しました。この活動では、「ねいの里」周辺の県有地で、動植物の生態調査や放置された里山の手入れを行っています。最初に活動を始めた6年前は、コナラやクヌギ、下草が生い茂り地表に光が届かず、動植物の多様性は失われていました。そこで、全体の約30パーセントの木々を間伐することにし、下草刈りやピオトープ作りなどの作業をしました。その結果、3年後にはササユリを確認することができました。その後、私たちの活動を多くの人に宣伝する意味も込めて「ササユリロード」や「ギフチョウの散歩道」など、たくさんの観察場所を設けました。

これらの活動のなかで一番工夫したのは、「サンシ



ョウウオの託児所」と名付けたピオトープ周辺に木道を設置し、木道と地表の間に空間を設けたことです。そのことによって、観察が容易になっただけでなく、サンショウウオが産卵のために山と池をたやすく行き来することができるようになりました。現在、「サンショウウオの託児所」は、年間最大80双の卵のうが確認され、世界一のホクリクサンショウウオの生息地となっています。

「ねいの里」での活動で、私は里山の自然を蘇らせることへの確かな手応えを感じました。そして、私たちが工夫や努力をすれば、里山はそれに応えてくれることを学びました。私たちの活動が、新聞などにも取り上げられ、里山の素晴らしさや大切さについて気付く人たちが増えてきています。反面、自生しているササユリを盗掘していく心ない人もいます。そのような時、活動が続いても無駄なのかもしれないと思うこともありましたが、「あっ、ここにあったササユリがなくなってる」という子どもたちの残念な声に、やはり活動を続けなければいけないと改めて思いました。

このような思いから、私は農業高校に入学し、バイオサイエンス研究会に入部しました。部では、絶滅が危惧されているエビネ・シュンランなどの野生ランやササユリの増殖を行っています。また、盗掘を防ぐために生産したバイオ苗を地域の方へ配布する活動や、栽培した苗を里山へ返す活動もしています。一昨年近隣の里山へ植えたササユリの球根が、今年花をつけました。なかでも、種をつけた株を見つけたときは、仲間と大喜びしました。今では活動が地域の人に理解され、里山と一緒に苗を植えるなど活動の輪が広がっています。また、これらの研究活動が昨年度、全国学芸科学コンクールで金賞を受賞するなど各方面から認められ、これまでの活動に自信を持つと共に、さらにやる気が高まってきました。

里山は、自然と人間をつなぐ重要な役割を果たして



います。里山を蘇らせることは、自然と人間の共存のための切り札です。それは人間が自然の生態系を崩すことなく、一員となって生活してきたところであり、たくさんの動植物を育み豊かな恵みをもたらすところだからです。私は今後も里山の再生に携わっていくために、将来は農業高校の教師になりたいと考えています。それはバイオサイエンス研究会のように農業技術を活かし、生徒と共に実践活動を通じながら後継者を育てることのできる職業だからです。里山の素晴らしさや大切さを多くの人々に伝えていくこと、これからの私の目標です。

荒れ果てていく里山を生命の活気あふれる里山に蘇らせることは、簡単なことではありません。しかし、私たち一人ひとりが里山の悲鳴に気付き行動することができれば、それが生態系の保全につながり、人間も自然の良い一員に戻れると思います。

皆で守りましょう！里山の自然を。私は、里山再生の輪を農業高校から世界に向けて広め、発信して行きます。



高校相撲金沢大会に参加して

3年 池松 俊哉

1ヵ月ぐらい前のこと、体育の瀬川先生から「相撲やってみるか？」と声を掛けられました。私は今まで相撲に関わったことがなかったのも、とても驚きました。しかし、何事にもチャレンジ精神が旺盛な私は、参加してみたいと心が動きました。

練習では、相手に頭からぶつかっていくのが、特に難しかったです。頭と頭がぶつかる瞬間、恐くて思わず顔を横にしまいます。初めのうちは痛いのが嫌でぶつかることができませんでしたが、次第に「どうしても勝ちたい」「勝つためならこれぐらい」という

思いが勝るようになり、徐々に恐怖心が消えていきました。

大会当日は、全国各地の3校と対戦しました。県内の中島高校と戦った時は、私より一回りも二回りも大きな相手で、圧倒されました。立ち合いでは、やはり体の大きさの違いもあり、土俵際まで追い詰められてしまいました。しかし1ヵ月間の練習で習った土俵際では体勢を低くすることと、脇をさされたら逆の方向へ体を移動させることの大切さを思い出し、寄り倒しで勝つことができました。勝った瞬間は、うれしくて思わず叫びたくなりました。さらに、応援して下さった方々からの「おめでとう」や「よかったな」などの言葉が心にしみました。



今回は、わずか1ヵ月の練習期間しかなく、十分な準備ができませんでした。しかし、相撲を通して培った体力・精神力・思い出は、私の一生の財産になりました。私は相撲を通して、何事もやればできるということを改めて感じました。また、今年は本校創立130周年でもあり、そういう記念すべき年に私たち自身が学校の名を上げることに少しでも貢献できたのではないかと考えています。最後に、指導して下さった皆さん、また応援して下さったたくさんの方々、本当にありがとうございました。



ハマナスの自生地保護活動

3年 安田 尚平

平成16年秋、当時の松任市役所文化課よりハマナス保護の依頼がありました。そこで、私たちグリーンデザイン研究会と「ハマナスを育てる出城ボランティアの会」の市民ボランティアの方たちで「ごけんちょう山」に潮風よけとなる竹垣を設置しました。これがハマナス保護の第一歩になりました。

「ハマナスを育てる出城ボランティアの会」は、白山市出城地区の住民を中心とした、白山市竹松海岸にある「ごけんちょう山」に自生するハマナスの保護活動を行っている民間ボランティア団体です。海岸清掃活動や、地域の学校で海岸の自然保護について啓蒙活動も行っています。

「ごけんちょう山」は白山市竹松海岸にある倉部川河口より南側にのびる海岸砂丘の山です。通称「ごけんちょう山」で、漢字での表記は確かではありません。昔は一面にハマナスが咲き誇る山だったそうですが、様々な問題からハマナスが減少し続けています。また、このハマナスは白山市の天然記念物に指定されています。

ハマナスは、有名な歌「知床旅情」の歌詞にもあるように、名前は有名ですが、その実態はあまり知られていません。ハマナスは、バラ科バラ属で、海岸の貴婦人とも言われています。日当たりを好むが暑さに弱いという性質の、海岸の砂地に生える落葉低木です。別名も、ハマナシなどたくさんあります。ハマナスの利用法も余り知られていませんが、ジャムを代表として意外と多くあります。ハマナスの分布は、茨城県から鳥取県以北の本州および北海道になります。そのなかでも石川県は自生のハマナス群落を見られる南の限界地点に近いと言われています。

平成19年度の主な活動は、5月22日（火）午前「ご



けんちょう山」で「ボランティアの会」の方々とハマダイコンの除草と追肥作業を行いました。5月26日（土）午前「本校」で「ボランティアの会」の方々とハマナスの苗1,183本を鉢上げしました。10月18日（木）放課後「ごけんちょう山」でハマナスの果実200個を採取しました。果実1個に種子約50個は入っています。これは後日、研究会で播種しました。11月4日（日）「ごけんちょう山」で「ボランティアの会」の方々とハマナスの苗800本を定植しました。これは平成19年度最大規模の活動で、あさがおTVやNHKでも放送されました。



私たち「グリーンデザイン研究会」は、白山市以外でも金沢市「下安原ハマナスの会」や能美市のボランティアの方々と地道なハマナス保護活動を行ってきました。その結果、平成18年度ボランティア・スピリット・アワードでコミュニティ賞（石川県で優秀なボランティア活動）を受賞しました。また、平成19年度ボランティア・スピリット・アワードではブロック賞（北信越で優秀なボランティア活動）を受賞しました。その結果、東京で年末に行われた全国授賞式に参加しましたが、全国トップ10には入りませんでした。

私たち「グリーンデザイン研究会」のハマナス保護活動は、地域の方々のご協力と民・官・学の連携により進行中です。そして、協力と連携なしには私たちの保護活動は失敗に終わっていたと思います。この活動を通して、お互いに協力し、連携することの大切さをあらためて知ることができました。

私たち「グリーンデザイン研究会」の今後の課題は、地域の連携を強化するとともに地域の連携を石川の海岸線沿いに拡大し、ふるさと石川の海岸線をハマナスで花盛りにする「ハマナス・ネットワーク」を作っていくことです。ご協力お願いいたします。

高校総体 2年連続 出場
六星賞 受賞

3年 中出 恭平

高校総体陸上競技に2年連続で出場。しかも48年ぶりとなる快挙であった。

本校運動部の活性化に大きく貢献し、対外的にも本校を大きくアピールした。

主な功績

2年次

石川県高校総体	400m ハードル	2位
北信越陸上対抗選手権大会	400m ハードル	5位入賞
	(大阪インターハイ出場)	
石川県新人大会	400m ハードル	優勝
石川県新人大会	400m	2位
石川県新人大会	200m	3位
北信越新人大会	400m ハードル	2位
北信越新人大会	400m	5位
	(北國スポーツ記録賞受賞)	

3年次

石川県高校総体	400m ハードル	優勝
北信越陸上対抗選手権大会	400m ハードル	3位入賞
	(佐賀インターハイ出場)	
国体石川県予選	400m ハードル	優勝
	(秋田国体出場)	



陸上競技部

2年 茶谷 智也

今年は部員が増え、とても良い雰囲気の中で練習に取り組めた1年でした。部員が増えたことにより、とても盛り上がる部活動になりました。記録会や大会が近づくにつれて、全員が努力をして頑張ってきました。シーズン前の冬季練習では、暖冬の影響もあって、毎日競技場を使うことができ、厳しい練習を重ねてきました。夏休みには合宿に行ったりして、全員が大きな力をつけました。

そして今年も中出先輩がインターハイに出場したほかに、国体にも出場を決め、注目を集めました。

今は3年生が引退して、部員も減りましたが、来年度へ向けて毎日、短い時間で質の高い練習に励んでいます。その成果は必ず来年度につながると思います。また、日々感謝の気持ちを忘れず、顧問の先生を信頼し、とても恵まれた環境の中で練習に励んでいきます。



高校生活を振り返って

3年 四十万侑佑

私が翠星高校に入学し、早3年が過ぎました。入学後の部活動紹介で、ハマナスの保護活動に興味を持った私は、グリーンデザイン研究会に入部しました。ハマナスの保護活動を行う中で、温度などの管理不足など多くの失敗もありましたが、活動が認められ、ボランティアスピリットアワードで表彰されるなど、嬉しいこともたくさんありました。また、表彰されたことで自信がつき、研究会活動に生かしていくことが出来ました。研究会に入ったことで、ボランティアの方々との交流などを通して、コミュニケーション能力を高めたり、仲間と協力して作業を行う大切さなど様々な経験が出来ました。

入学して最初の頃の総合実習でグリーンデザイン系をまわった際に、私は庭園の造形や技術に感動し、造園を勉強できるグリーンデザイン系に入る事を決めました。系に入ってからしばらく経ち、先生に農業鑑定競技という各分野の専門的な知識を競うものと教わ

り、造園をより詳しく勉強するために農業鑑定競技の造園区分に参加しました。1年次は専門教科が少なく、鑑定の勉強の内容を理解するのが困難でした。しかし、一生懸命勉強に取り組み、県連大会では運良く最優秀賞を受賞しました。自信を付けた私は2年生になっても、引き続き競技に参加しました。2年になり専門教科も増えたため、鑑定の勉強も理解できる部分が増え、全国大会でなんとか優秀賞を受賞しました。全国大会で優秀賞を受賞し、次は最優秀賞を目指すという目標が出来ました。3年生になり、放課後の空き時間や長期休暇を利用して、勉強しました。そして、全国大会で、念願の最優秀賞を受賞出来ました。3年間鑑定競技に参加し、こつこつ勉強を積み重ねてゆく大切さなど、色々な事を学べ本当に良かったです。

最後になりましたが、翠星高校に入学してから3年間お世話になった先生方、本当に有り難うございました。

エコギフト初代大賞を受賞

宮下 正司 教諭

本校は、今年3月、石川県庁で初めて開催された「地域環境力向上フォーラム」においてエコギフト初代大賞を受賞し、谷本県知事より小型風力発電機が贈られました（グラウンド横に設置されており、国道8号線よりご覧いただけます）。石川県では、環境保全活動の裾野を広げるために「エコギフト事業」を創設しています。

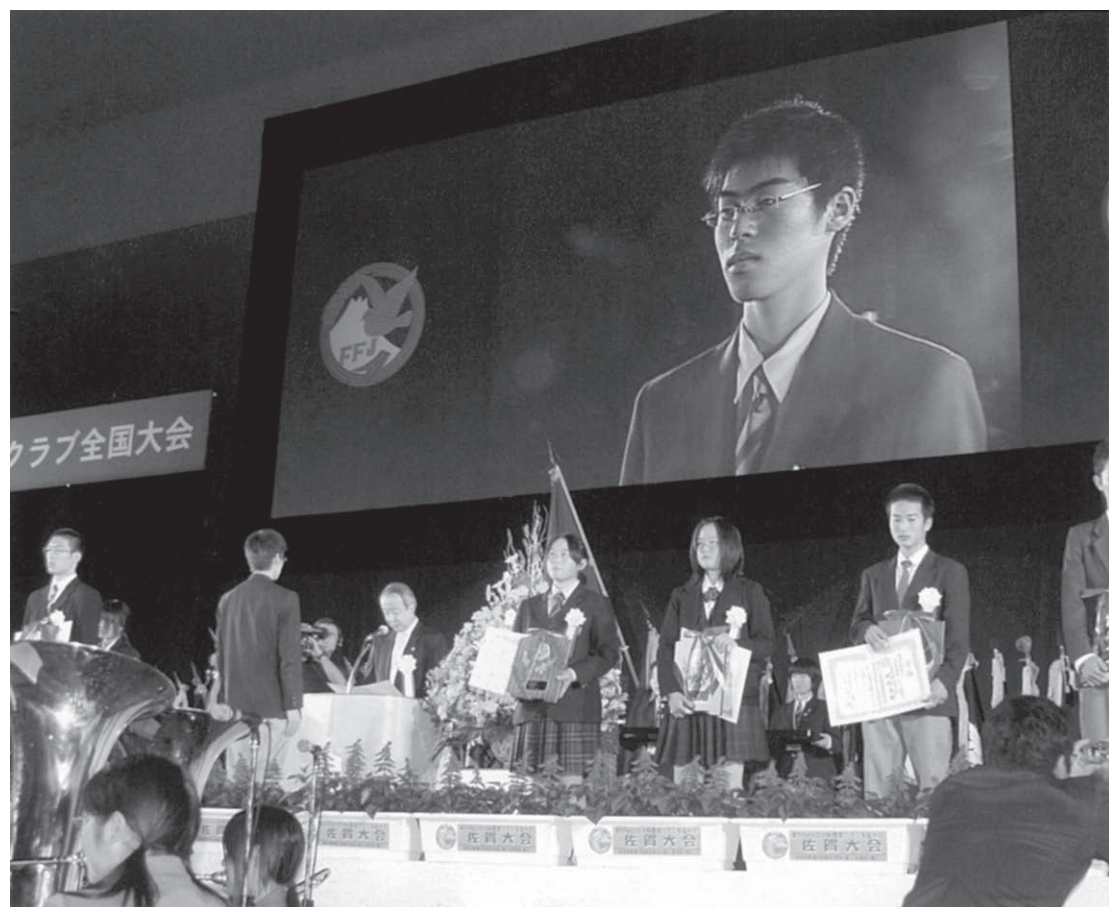
本校は、石川県独自の認定制度「いしかわ環境ISO」に登録しており、循環型社会づくりなど環境教育を推進する学校として認定を受けています。

大賞の受賞理由は、省エネ・省資源に取り組んできたことは勿論、農業高校の特色を生かし、絶滅危惧種であるササユリやエビネ、自生地が減少しているハマナスの復元に取り組んできたことが高く評価されたからです。

この受賞を契機に、農業高校だからこそできる環境教育をさらに推進していきたいと思います。



副賞の小型風力発電機



石川県高校駅伝 男女アベック初出場

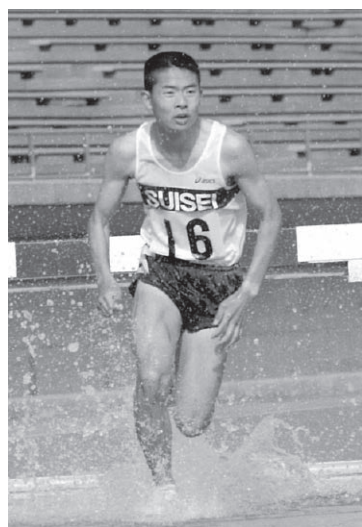
陸上部顧問 永島 泰治 教諭

今年の陸上部のメンバーは、県高校駅伝大会に男女アベックで出場という大きな目標を掲げて、冬季練習、夏季練習を積み重ねてきました。大会が近づくにつれて、結束力が高まり、加賀地区高校の中で唯一本校だけが、男女アベック出場を果たすことができました。

試合当日は、雨が降っており、気温も低かったが、生徒たちは、自分の任された区間を精一杯走りきったと思います。女子は松任農業高校時代を通じての初出場で、部員は緊張感を持って試合に臨み、全員自己ベストで17チーム中、12位でゴール。男子は、昨年は7区で繰り上げスタートをさせられましたが、今年は、最終区までタスキがつながり、18チーム中、13位でゴール。男女ともよく頑張ったと思います。来年はさらに上を目指して感謝の気持ちを忘れず、努力を

積み重ねていきたいと思います。

また、学校長をはじめ、本校職員の方々、OBの方々ご声援ありがとうございました。



全国大会に参加して

3年 沢田 滯

『全国大会出場!!』これは私達フードテクノロジー研究会、プロジェクト班の今年の目標でもありました。私達3年生は昨年から、この目標を掲げていました。

それは昨年の夏、農業クラブ県連大会で最優秀となり、北信越大会に出場しましたが、惜しくも敗退してしまい、とても悔しい思いをしました。それから私達はその時の思いを胸に、『来年は必ず全国大会に出場しよう!!』と心に決めました。

そして今年、新入部員を迎えて数ヶ月が経ちました。先生に「今の人数では全国大会に向けての活動は難しい。1年生を参加させてみないか?」と言われ、私達3年生6名に、1年生2名を加えて、新たにプロジェクト班を組むことになりました。

昨年は『地産地消』をテーマに、白山市の清酒メーカーの清酒から出る酒粕を使用したパンを作りましたが、味や香りに難があり品質的にも良いものではなく、残念ながら試作の段階で終わってしまいました。

そして今年は、『地元の素材を活かした高品質のパンを作り、そのパンを外部販売し、多くの人に地域の素材の良さを知ってもらおう』、『私達のパン作りの技術をより多くの人に伝え、地産地消の意識を高めよう』という二つのテーマを設定し、研究をスタートしました。

今年は身近な素材に注目し、学校産小麦粉と石川県内産米粉を使用したパンを3種類完成させました。

そして二つのテーマに基づく活動として、本校ピュ

アマート、Aコープ富奥店でパン販売、校内や市内の中学校での講習会を行いました。その他にも県内外の様々なイベントに参加するなど、自分達に出来ることは沢山しました。

農業クラブ県連大会…長野県で行われた北信越大会…と順に勝ち進み、ついに私たちの目標とする全国大会へ出場する事が決まりました。

私たちは、上位入賞を目指して前大会の発表を見たり、日々の発表練習を積み重ねていきました。

そして全国大会。前日にはリハーサルが行なわれ、各ブロック代表の発表を目の当たりにして、完成度の高さに驚きが隠せませんでした。

発表当日。私たちは、緊張してしまい思うような発表が出来ませんでした。さらに、他のブロックの発表は大変素晴らしいもので、全国大会のレベルの高さに圧倒されました。

翌日に大会式典が行なわれました。残念ながら私たちは、上位入賞をする事が出来ませんでした。最優秀賞を受賞した学校は、上位常連校だったので、凄いと思いました。

そして、翌日に顧問の先生からこれまでの反省を含めた言葉を言われ、入賞出来なかった思いがこみ上げてきました。

私たちは、3年間の活動を通していろいろな事を学びました。後輩には、私たちが達成する事の出来なかった全国大会入賞を目指して頑張ってほしいと思います。

最後に、応援して下さった地域の方々や先生方、そして何よりも顧問である谷先生にはとても感謝しています。

3年間ありがとうございました。



全国大会に参加して

3年 上出 歩



私は全国大会に行くために2年間勉強してきました。私たちには、放課後、夏休み、冬休み、春休みはなく、ほぼ毎日学校に来て勉強するようになりました。

2年生の時に県大会の1ヵ月前から勉強を始めたのですが、来年は全国大会に行きたいという思いが強くなり、2年生の冬休みからまた勉強を始めました。正直冬休みや夏休みがないのはつらかったですが、除々に身につけてきているのが嬉しかったです。

今年の県連大会は去年より問題を解くことは出来ましたが、賞はとれませんでした。その時点では、全国大会に行けるか分からなかったのが不安でしたが、数日後、先生から電話が掛かってきて「園芸区分から上出と今村が全国大会行くことになったぞ」と聞いたときはとても嬉しかったです。

私は全国大会に行くことが決まってから毎日の勉強をサボるようになってしまいました。しかし、友達が勉強しているのを見ると自分も頑張ろうと思うようになりました。

北海道に着いてからは今まで勉強してきたファイルを見返す程度しかできませんでした。大会当日は、少し緊張しましたが、今まで勉強してきた成果を発揮できたと思います。

速報を見たときは、自分の名前があるなんて思っていなかったのが、自分の名前を見つけたときは、とても嬉しかったです。今までがんばってきたことが結果として表れてよかったです。

この結果に辿り着けたのも先生方のおかげです。ありがとうございました。

文化祭

1年間を通じて最大のイベントである文化祭。前期の生徒会役員が中心となり準備・企画に当たりました。特に忙しさが増したのは、10月からです。実習や部活、入試などの準備でなかなか全員が揃わず、話し合いも作業の確認も出来ません。また、執行部として今までの文化祭を経験しているのはたったひとりです。他のメンバーはどのような仕事があるのか、何をしたらいいのか分からないのです。指示待ち人間で、自分から聞くことも出来ない状況でした。自分が知らないところで3年生の佐藤さんが随分と動いてくれていました。佐藤さんがいなかったらきっと成功しなかったと思います。ありがとうございました。

文化祭が終了した時は、ヘトヘトでした。しかし、無事やりきることが出来て良かったです。



宿泊研修

1年 大浦 元気

宿泊研修は中学までにやってきた合宿とは違って、本当に勉強になる事をやるのだと思った。

ジェラートの研修では、本物のジェラートを食べさせてもらえたり、柴野さんのジェラートに対する思いが強く感じられました。「継続する力の大切さ」という言葉を聞いた時とても感動したり、高校で入部した部活動を最後まで続けようと決意した。野外炊飯は、合宿以来で本当にちゃんとカレーを作れるか心配でした。自分の班は火をおこし、燃やすのに手間取り、他の班が出来上がっているのを見て焦った。ルーはジャバジャバ、ご飯はカチカチのカレーライスになった。でも何とか出来上がって良かった。

農業クラブの研修は京都の高校のビデオを見た。世界遺産を遺すという大きな目標を持ってやっていたのを見た時、同じ高校生でも努力すればここまで出来るのだと思った。グループエンカウンターは、クラスのみんなのことを知れて良かったし楽しかった。クラスのみんと沢山交流が出来た。マナー研修は、当たり前のことをやるということだったが、いざやってみるとなかなか出来なくてやり直しさせられた。でもそれも勉強になった。

この研修は、クラスや他のクラスの人たちともいろいろ交流が出来て楽しく勉強になった。



文化教室

3年 柿島 桜子

私はこのような演劇を見たのは初めてだ。歌舞伎やミュージカルと違い、人の微妙な表情までステージの間際で楽しむことが出来て、最初から最後まで見逃すことが出来なかった。

私にとってこの物語は、ハッピーエンドではなかった。なぜなら私はシャイロックの味方だったからだ。嫌われ者はどの町にもいるもので、どんな話にも欠かれない。しかし、シャイロックはそこまで悪い人ではないと思う。むしろこれまでの人生で感じた決して晴らすことの出来ない恨みや無念さが、法廷から去る後ろ姿から伝わってきて、愛しささえ感じた。彼にとっては長年の恨みをようやく晴らす時が来たのだ。人肉を利息として切り取ると宣言する程まで悲しみにあふれた彼には、慈悲の心などもう手遅れなのだと思う。むしろ問題なのは、アントーニオやその親友バサーニオではなかったか。巧みな弁舌でまるで善人のように振る舞い、情けをかけたくるような弱々しさ…。でも約束を破ったのは彼らのほうである。あちらでよい顔をし、聞こえの良い言葉を並べるバサーニオにも呆れた。

シャイロックの人肉を切り取ろうという行為や、人をあやめようとする行為は決して許されるものではない。しかし、その時代にあった暗黙の人種差別、そしてその上に塗り固めた美しい友情、法、知恵によって彼らはシャイロックという人間の心を殺してしまったのではなかろうか。



全国大会に参加して

2年 上田 悠

私は鑑定競技、食品科学区分に参加しました。全国大会に行ける、と知った時はとても嬉しかったのですが、本格的に鑑定競技の勉強を始めてみると見たことのない道具や初めて聞く内容の問題も多く、とても大変でした。さらに、このような大きな大会は初めてだったので、大会が近付くにつれ、不安と緊張ばかりが増していきました。

競技前日に会場となる諫早高校に下見に行った時、あまりの広さに驚きました。会場を見たことでさらに緊張感が高まりましたが、同時に明日なのだ、という実感も湧き、気を引き締めることが出来ました。

当日は控室に入ってから競技が始まるまでがとても長く感じられました。そしていざ自分の番になり問題が並んでいるのを見たときには、あまりの緊張で頭が真っ白になりそうでした。それでも、大丈夫だ、出来

る、と自分に言い聞かせながら問題を解いていきました。問題がすべて終わったとき、予想以上に解けたことに嬉しくなりました。けれど答えが配布され自己採点してみると思っていたよりも不正解が多く、きつと入賞は無理だ…と思いました。そんなこともあり速報の優秀の欄に自分の名前を見つけた時はとても嬉しく、勉強を教えてくださった先生方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

式典では最優秀賞のプロジェクト発表を見ました。私も今年、プロジェクト活動に参加し、全国出場はなりませんでしたが、北信越大会で発表をしました。全国大会で最優秀を受賞した発表は、発表態度がとても堂々としていて内容も濃く、自分たちの発表やブロック大会で見た発表とのあまりの違いに驚きましたが、とてもいい勉強になりました。

今回の全国大会参加は、不安や緊張も大きかったですが、入賞出来ただけでなく、実際に参加してみないとわからない雰囲気を知ることができ、自分にとってもいい経験になったと思います。

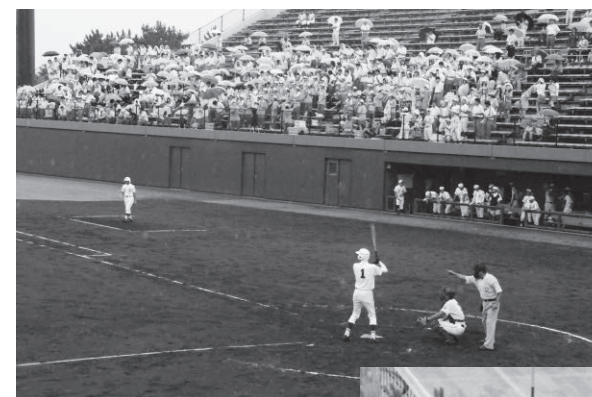


大会と全校応援

応援団長 丹保 祐貴

夏の高校野球、翠星高校は全校応援で大会に参加しました。そんな多くの人が応援する中で私は、応援団長というとても責任感のある立場にいました。応援団の活動は、6月の中頃から始まりました。応援の練習は振り付けを考えたり、打ち合わせをしたりと大変なことも多かったです。自分でもどうしてこんなに頑張ることができたのか、よくわからないけれど、たぶん自分達の大会の時、壮行式で野球部の応援、大会会場での保護者の方々の熱い声援のおかげで、今までやってきたことを全力でプレーすることができたと思います。そんな素晴らしい思いを野球部の人達にも味わって欲しいと思い頑張ってきました。

全校応援当日になり、試合が始まりました。全力で応援しましたが、健闘もむなしく翠星高校は負けてしまいました。試合が終わって、自分は本当に全力で応援できていたのかとても不安になりました。しかし、試合後の元雄監督と主将の川端君が「ありがとう」と言ってくれたとき、自分がやってきたことが野球部の力になっていたのだとわかりました。来年の応援団の人達にもこの思いを味わって欲しいと思います。



東日本大震災復興募金

3月に東日本大震災が起こり、自分たちでなにかできることをと考え、春休みに松任駅で募金活動をしました。野球・陸上競技・女子バレーボール・ボランティア部の皆さんが、自主的に活動に参加してくれました。

文化祭では、被災地へのエールも各企画に考えてもらいました。そして、3年次生の模擬店や2年次生の即売売り上げ金、1年次生の募金と併せて、被災地の義援金として使うことにしました。

部長の責任

男子バレー部主将 橋本 凌平

私たち男子バレー部は3年次生が中心となり頑張ってくれたおかげで総体をベスト8という結果を残すことができました。その主力となっていた3年次生が総体終了後引退し、部員6名というギリギリの人数となりました。

3年生の抜けた穴はとても大きく、存在の大きさを実感しました。

残った私たち1、2年次生でもう一度基礎から徹底した練習を行い、一人一人がスキルアップできるようにしたいと思っています。また、何よりもチームワークを大切にするチーム作りを心がけ、そしてこれからある大会に向けて日々練習し、3年次生が残してくれた結果を私たちも残せるよう頑張りたいと思っています。来年の新入生を増やすためにも今の自分たちが

よい成績を残して「翠星高校男子バレー部」と胸を張れるような部活動にしていきたいと思います。しっかり大きな声を出し、今の部員たちと少しでも長く活動ができたらと思っています。

全国大会を終えて

3年 四十万愛梨

私は農業鑑定競技の食品科学区分で全国大会に出場しました。鑑定競技に出ようと思ったきっかけは先生の誘いでした。それから全国大会まで1年ほどかけて勉強してきました。

全国大会当日は、全国から集まった農業高校生の多さに驚きました。会場の雰囲気も普段学校でやっている鑑定競技の雰囲気とは全然違いとても緊張しました。

今まで、基本的な勉強はもちろん、過去の問題も何回も繰り返しやってきたのでそれなりに問題が解ける自信がありました。でも実際、全国大会の問題は今までにやってこなかった問題もたくさんありとても難しく、全国のレベルの高さがわかりました。

競技が終わったあと自己採点をしましたが、目標の点数には届いていませんでした。もっと勉強し、応用問題もたくさんやっておけばよかったと後悔しました。

表彰式の日、配られた速報に自分の名前があり驚きました。自己採点では点数が低く、絶対に無理だと思っていたのでとても嬉しかったです。

最初は軽い気持ちで始めた鑑定競技でしたが、一生懸命勉強するうちにもっとできるようになりたいと思うようになりました。

全国大会に出場し、優秀賞をとって結果を残せたことが高校でのいい思い出になったのでよかったです。



農業クラブ全国大会長野大会に参加して

2年 中川 諒美

1年のとき、先生にすすめられて、農業クラブになんとか入りました。1年生のときは先生に言われるままに先輩の姿を見ながら活動していました。その時は、大会などに出ている選手を見ても、自分には関係のないものだと思い込んでいました。

2年生になって、2回目の校内鑑定競技がありました。そこから先輩や同級生が選ばれていて、少し安心していた部分もありました。しかし、野球の全校応援の日に、白石先生から「1人、選手の生徒が降りることになったから、中川どうや?」と言われて、初めは



なんで自分が選ばれたのかわからなかったし、他人の代わりなんて嫌やと思っていました。それでも、声をかけてもらえたから、全国大会には行けなくてもやってみようかなと思ったので、夏休み、部活や補習、農業実践演習もあったし、それらと並行し過去問を見ながら勉強していきました。

そして、県連大会。まだ分からないことばかりで、きっと答えられないだろうと半分諦めていたけど、夏休みの間勉強してきた分、頑張りました。その成果が、優秀をいただいて、本当は全国大会に出る選手ではなかったけど、3年生の宮下さんが農業クラブで係があたっているから出られなくなったので、全国大会に行くことになりました。

夏休み明けから本格的な勉強が始まりました。全国大会と同じ時期に文化祭もあったので、部活に行っからはほぼ毎日遅くまで学校に残って勉強していきました。その間、全国大会と部活のプレッシャーで、何度も嫌になる時もありました。けど、教えてくださっている親谷先生や、応援してくれていた先生や友達がいるし、自分のためにも頑張れました。

日が近づくうちに、先生から説明を受けたりして、「あーほんとに全国大会なんだ」と除々に実感していき、その頃には、夏休みより勉強してきたし、理解することも増えてきて少しずつだったけどプレッシャーが自信にも変わっていきました。

長野へ出発の日、あいにくの雨で寒かったのを覚えています。一瞬だけ大会のことを忘れて、バスの中、先輩や先生と話したりして緊張がほぐれ、リフレッシュできました。気づいたら長野に着いていて、旅館で最後の勉強をしました。

朝起きて準備している時、いよいよかという楽しみな気持ちと、緊張で胸がいっぱいでした。会場に着いて、他の全国各地から来た農業高校生を直に見て、これから始まると思っている内にもう競技が終わって、

ホテルにいました。自己採点をしていても、ぜんぜん答えられなかったし四十万先輩が入っていたら、それで気持ちよく帰れるなと思っていました。

次の日、式典の終わりごろ、速報が届き、小園さんが「おめでとう!」と言ってきて、初めは何のことかわからなくて速報を見にいくと、優秀の欄に2人の名前があって、見つけた瞬間、親谷先生を見ると大きくうなずいてくれて、泣きそうなくらいうれしかったです。いままで、そんな時間もなかったし、十分に勉強できていなかったのに、全国大会で優秀がとれて、本当に頑張ってきたよかったと思いました。

帰り道、親谷先生に「中川、来年は最優秀やな!」と笑いながらだったけど話していて、来年に向けて親谷先生が勉強をまた教えてくれるのでまた頑張ってみようかなと思いました。

全国大会にいけてよかったです。

どこにも負けない応援

1年 本濱愛理菜

高文連後、すぐに野球の応援曲を練習し始めた。私は楽器がよく変わって、その度に楽譜が変わり、一つの曲を暗譜するのが大変だった。しかし、昼休みの応援練習で、応援団の人が紙を見ずに練習している姿に「自分も頑張らんなん」と思い、毎日部活を頑張った。1日1曲は覚えられるように自分の苦手な所を集中して練習をした。でも、なかなか覚えられないのが悔しかった。

本番前の全校応援までには何とか暗譜できたけど、ミスは多かった。本番では、まじな音楽にしたくて家でも練習した。

当日、思ったより暑くない球場にほっとした。試合が始まって、みんなで応援していてすごく楽しかった。いくつかミスしたけど、そんなことが気にならな



いくらい応援を頑張っていた。音が裏返っても、少し間違えても、応援している間はいつもみたいに止まってしまうことがなくて、ずっと吹き続けていられた。みんなで声を出すことや、演奏することがこんなに楽しいと思ったことがなくて、嬉しかった。中学の時は大きな大会に進むことだけを考えていたから、そんなことを気にしないで吹けるのが一番良かった。

試合には負けたけど、今日の全校応援は今まで一番楽しかったことで、どの学校にも負けないすごい応援だったと思います。来年も今日みたいに応援したいです。



修学旅行を終えて

2年 勝島 亮佑

沖縄はすごく暑いと思っていたけれど、時期も時期だったので、気温もちょうどよくてとても過ごしやすい気候でした。

国際通りの自主研修では、長く見えて意外と短い1マイルを隅から隅まで移動して買い物をしました。どの人もとても優しく、良く話しかけてくれたので、楽しい気持ちになりました。行きたかったショップにも行くことができたので、計画通りとはいかなかったけれども楽しい自主研修になったと思います。

今回の沖縄修学旅行では、戦争のことを考えさせられることが多かったのではないかと思います。平和の礎、摩文仁の丘、ひめゆりの塔、資料館など沖縄戦のことを細かく知ることが出来て良かったです。最初は全く興味のなかったことだったけれども、日本の歴史を知ることの良いことだと思いました。

伊江島民泊体験では、島の人々がとても優しく、色々な体験をさせてくれました。理解できない言葉もありましたが、自分たちに一所懸命話してくれるので、自分たちもしっかり聞こうという気になりました。伊江島の歴史を教えてくれたり、島の絶景スポットなども見せてくれて、自分たちを楽しませようというのが伝わってきました。また伊江島にも行ってみたいと思いました。

第64回 農業クラブ全国大会（首都圏大会）

平成25年10月23日～25日、第64回日本学校農業クラブ首都圏大会が開催され、本校から、農業鑑定競技、クラブ員代表者会議、秋季代議員会に、9名が参加しました。

農業鑑定競技では、「食品科学区分」で優秀賞を獲得したほか、クラブ員代表者会議では、「クラブ員が興味を持てる活動にはどのようなものがあるか」というテーマで、事例を発表しました。



全国クラブ員代表者会議に参加して

2年 室 瑠衣

10月22日、23日に東京都立農芸高等学校で行われた、全国大会のクラブ員代表者会議に、第2分科会第4会場の事例発表校として、発表者2名と補助者2名、指導助言者1名の先生含め計5名での発表を行いました。私は発表者を担当し、全国から集まるクラブ員の前で、できるだけ大きい声で、わかりやすく話すことを心掛けながら発表しました。

前日のリハーサルの際は、みんな大きなミスすることなく緊張せずに出来たのですが、本番では文章を飛ばして読んでしまったり、練習の時は、スムーズに言っていたのに詰まってしまうと、やはり結構緊張していたようです。でも発表する前に、ミニゲームで伝言ゲームと名刺交換をしていたので、「いきなり発表するよりはマシだな。」と思いました。同じ学校の人とは、みんなバラバラの班に座っていたのですが、それぞれ周りの人と仲良くなれていました。私も最初は緊張して、あまり話せなかったのですが、段々と話せるようになり、発表に対するまとめやテーマについてのまとめの時に、それぞれの学校がどんな様子なのか、何を作っているのかを話し合いました。そして翠

星高校との違いがたくさんあることを知り、とても勉強になりました。なかでも農場への移動に1時間以上かかる農業高校があるという話には驚きました。

クラブ員代表者会議に実際に行くまでは、もっと堅苦しいものだと思っていたのですが、参加してみるとそんなことはなく、みんなが自分の意見を気軽に言い、会議も楽しくスムーズに進めることが出来ました。今回経験したことを無駄にしないよう、今後の学校生活や、進路を決めるときに役立つよう頑張りたいです。

クラブ員代表者会議に参加して

2年 辰田 唯奈

10月23日、24日に東京都立農芸高等学校で行われたクラブ員代表者会議に、翠星高校は事例発表校として参加しました。私はパソコンの担当でしたが、全国大会ということもありとても緊張しました。大会前日の練習では、これまでどおり滞りなく発表することができました。会議当日、名刺交換やゲームなどをして親睦を深めた後、「クラブ員が興味を持てる活動には、どのようなものがあるか」について話し合いをしました。事例発表では、少しミスがありましたが、焦ることなく進められたと思います。

話し合いでは、高校が違うという壁を感じることなく、楽しく意見交換ができました。私が思いつかないような意見が沢山あり参考になりました。ただ話し合いの中で、翠星高校について質問されたとき、すぐに答えられなかったことと曖昧になってしまったことに悔しさが残りました。休憩時間では、あまり会話ができなかったけど、話し合いをしているときに、自分の高校について教えあったりしました。私たちの高校にはない学科や活動を知ることができてとても楽しかったです。あまり体験することのできない全国大会に参加できたことは良い経験になりました。参加したことで農業クラブに対する意欲も以前より高まった気がします。この経験を活かし、より力を入れて今後の活動を行っていききたいと思います。



キャリアガイダンスを通して

1年 中藤 輝

僕はキャリアガイダンスでいろんなことをしてきました。またその活動を通していろんなことを学びました。5月に行われた宿泊研修では講習会や野外炊飯などをして新しい友達を作ることができました。

6月から7月にかけて各自が進みたいコースについて先生達から話をきいたりしながら決めました。自分の進むコースや自分がとる授業について真剣に考えました。9月には学校付近のゴミ拾いを行いました。普段使っている道でも、いざゴミを拾うとなるとそのゴミの多さに驚きました。ペットボトルや空き缶は言うまでもなく、折れた傘、お菓子の袋、タバコの吸い殻も多くみつけました。持ち歩いていたゴミ袋は短い間ですぐに一杯になりました。このことからゴミのポイ捨ては軽い事ではないと改めて感じました。

これらの活動を通して学んだことは、クラスの皆や友達と協力することの大切さや他人とのコミュニケーションの大切さです。僕はこれらのことを忘れずこれからも高校生活にいかしていきたいと思いました。

文化祭

2013年の文化祭テーマは、「SMILE翠星～GREENな僕たち～」でした。1日目は、笑福亭純瓶さんの公演が行われました。「俺がルールだ」という演台で、おもしろおかしく現代の若者を表現していて何か身近に感じるものがあつたと思います。2日目は、本校OBの堀達夫さんと北貴良さんをお招きして生徒とのパネルディスカッションでは、「高校時代と私」という演題で講師の高校時代の話や、私たちの進路に関する話が聞けて、とても参考になりました。



部活動の思い出

3年 山下 真美

私は高校野球が好きです。中学生の頃からずっと、高校生になったら野球部のマネージャーをしたいと思っていました。入学して、女子部員が一人もいないことに私は怖じ気づきました。一人じゃできないと入部することを諦めました。翌年、周りの友達にも背中を押され、やっとの思いで顧問である元雄先生の所へ入部希望を話しに行った緊張感は今でも忘れません。マネージャーを始めてから、放課後は毎日グラウンドで過ごしました。毎日毎日同じことの繰り返しでしたが、部員が少しずつ上手になっていく姿は嬉しかったです。休日の練習試合も、普段の学校生活よりもまじめな顔が新鮮でした。遠征にも行き、みんなのお世話をするのが楽しかったです。

今年の夏は、3年生と一緒にスコアラーとしてベンチに入りました。選手の間みなと同じ目線で熱くなりました。特に3回戦目は、手の震えが止まりませんでした。それほど入部当初より野球がもっと好きになったんだと実感しました。私は、野球部に入部して本当に良かったと思っています。応援してくれた家族や友達、指導してくれた顧問の先生方、私に元気をくれた野球部員やマネージャーの後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。



全国大会に出場して

3年 室 瑠衣

私は、農業鑑定競技の造園区分で大会に出場しました。

全国大会となると問題も難しいものが出てくるだろうから頑張らないと、という思いで勉強しました。去年は県連大会で終わってしまったので今年初めて全国大会に行きました。今年の全国大会は沖縄県であり、大会前日暑くて眠れませんでした。横になっても眠れなかったので、フロントに行き勉強しました。勉強していると違う県の農業鑑定の方が来て仲良くなれたので眠れなかったのですが、良かったです。

大会会場は、県連大会の時とは雰囲気がとても違い

少し不安になりました。私の順番は一番最後だったので待ち時間が長かったのですが、勉強しても不安であまり頭に入って来ませんでした。自分の順番が来て問題にとりかかると、分かって当たり前の問題ばかり出てきたのに私はまったく解けませんでした。なので、終わった後は入賞もしていないだろうと思っていました。しかし、結果発表の日、号外が出され、見てみると入賞していたのでびっくりしました。ただ、入賞して嬉しかったのですが、逆にもっと勉強すれば最優秀を取れたかもしれないと思い少し悔しかったです。

全国大会に行ったことは、自分にとってとても良い経験になりました。また、県外に友達ができ、その人と話をして違う県に興味を持つことが出来たので本当に良かったです。



文化教室

2年 伊藤 星花

今年の文化教室のゴスペルコンサートはとても楽しかったです。ゴスペルを見るのは初めてで、力強く透き通る歌声で鳥肌が立ちました。途中感動で泣きそうになる場面もありました。一番印象に残っているのは、アナと雪の女王の主題歌「Let It Go」です。素敵すぎて見とれてしまいました。周りでは一緒に歌っている人もいました。見ていただけじゃなくて、参加できることがとても良かったです。手拍子や掛け声など、初めは恥ずかしかったけれど、楽しくって恥ずかしいと思うのを忘れていました。ソウルマティックスの皆さんと、楽しい時間を過ごせたことが一生の思い出になりました。一曲一曲の歌の歌詞が心に響き、たくさんの元気や勇気をもらえました。また、ソウルマティックスの皆さんと、どこかでお会いできると嬉しいです。

文化祭

2014年の文化祭のテーマは「Smile blightly ～翠のキセキ～」でした。1日目は、河二敏雄さんの公演が行われました。演目は、「昔の農業と今の農業」で、とても分かりやすい内容で昔と今の農業の違いを学びました。河二さんの会社で販売されているお菓子もおいしくいただきました。2日目は、邦楽、芸能王、河口こうへいさんのものまねショーが行われました。芸能王では、7組のグループが参加し盛り上げてくれました。河口さんは、翠星高校の卒業生で安川先生と同級生だったそうです。河口さんのお父さんも来て下さり、楽しいマジックショーを見せて下さいました。3日目は、各クラス企画が行われました。1年生の企画は遊べる出し物、2年生は翠星で育てた野菜などの販売で、3年生は、翠星で育てた作物などを使って、模擬店を開きました。特に3年生の企画の食べ物、どれもすごくおいしかったです。他にも、各部活動（文化部、研究会、農ク、PTA）や生徒会も、企画をしました。それぞれ個性的な企画で、どれも楽しかったです。一般のお客様もとてもたくさん来てくれました。

3日間、全校生徒で楽しむことができ、良かったと思います。

園芸福祉コース

3年 倉田優芽乃

園芸福祉コースでは、1年の頃から沢山の種類の花や野菜を育ててきました。花や野菜の育て方や知識だけではなく、花を飾ることでその場の雰囲気をよくしたり、癒される効果があることを学びました。他にも一緒に野菜を育てることで、コミュニケーションをとれたりするので、園芸を学べて良かったと思いました。

福祉では障害や介護についてなどの知識を学んで、考え方が3年間で大きく変わりました。障害のある人や高齢者の人達と交流が出来たことは、自分のこれからの人生にとってもプラスになりました。それまでの自分は、福祉について無知だったので、怖いという気持ちがあったけれど、これからは積極的に困っている人がいたら助けたいです。そして、自分の学んだ事を知らない人がいたら、教えてあげたいと思います。私がこのコースで学んだ事は、卒業してこれから先も生かしていけます。とても良い経験が出来ました。



全国大会優秀について

2年 岩見 拓海

私は平成27年10月21日、22日に群馬県で行われた、「第66回日本学校農業クラブ連盟全国大会」に参加してきました。そして、その中のプロジェクト発表食料・生産の区分に出場し、見事に優秀賞という結果を残すことができました。これも、1年間コツコツと毎日活動を行ってきた、努力の表れだと思います。

私達の研究会発表内容は、野々市市で栽培されているヤーコンという野菜の加工品開発についてでした。研究のきっかけは、野々市市からヤーコンの加工品を開発してほしいと依頼があったことです。この時は、まだ私達は入学をしておらず、先輩方が様々な加工品をつくり、どんな風に加工すれば良いか、活動していました。そして金沢の郷土料理である、大根寿司からヒントを得て、ヤーコン寿司を作り出しました。

私達が入学してからは、ヤーコン寿司の製品化へ向

けて、様々な工夫や基礎的なデータを得るために硬度や酸度等の実験データを集めたり、学校でできない実験は、金沢工業大学へおねがいして分析させていただきました。他にも、通常は捨ててしまうような小さかったり、細いヤーコンを利用して、ヤーコンジャムやヤーコン甘酢漬けなどの製品開発を行ってきました。

野々市市や農家さんからの協力もあり、活動が大変充実しただけでなく、私達にとって良い経験になったと思います。

これらの活動をまとめ、全国大会での発表に臨みました。夏休みの間、毎日行ってきた練習を自信にして、チームが一致団結し、良い発表会ができたと思います。その結果、本校では16年ぶりとなる優秀賞をいただくことができました。私達の活動が全国に発信されることにより、野々市市のヤーコンを知ってもらうことができ、地域活性化への手助けになったと思います。

これからもヤーコンの普及活動を継続し、来年度は全国大会で最優秀賞をいただけるように、日々の活動にはげみたいと思います。



文化祭でのマナー向上PR、美化活動



全校生徒に、マナーについて意識してもらうため、文化祭で『す』ごしやすい 『い』い環境で 『せ』いとは 『い』つも元気と『す』い・せ・い』が頭文字の標語を考え、思いが伝わるように、マイクを通さずに大きな声でアピールしました。また、昨年に引き続き環境美化委員会がゴミ箱の設置と文化祭期間中の回収作業をしてくれたおかげで、校内がとてもきれいな状態だったと思います。

2015年の文化祭のテーマは「Smile 翠星～緑とコカイな仲間たち～」でした。今年の文化祭は、工事の関係で毎年のように出来ませんでしたが、全校生徒の協力のおかげで乗り越えることが出来ました。1日目は、本校の卒業生の方々5名を招き、シンポジウムを行いました。演目は「140周年を迎えて」でした。先輩方の話を聞き、翠星の歴史を感じることが出来ました。また、多くのアドバイスをいただきました。2日目は、邦楽や吹奏楽、芸能王、間 慎太郎さんのライブ&トークショーが行われました。間さんと廣正先生が仲良しということで、コラボライブもあり盛大に盛り上がりました。芸能王では、11組のグループが参加し大いに盛り上げてくれました。3日目は、各企画が行われました。1年生のクラス企画は遊べる企画を行い楽しませてくれました。2年生は、翠星の生産物や加工品を販売し、本校をPRしてくれました。3年生は、各クラスで模擬店を行いました。生憎の雨でしたが、各テントには行列が出来、売り切れた商品もありました。他にも、各部活動（文化部、研究会、PTA）や生徒会も、企画をしました。それぞれ個性的な企画で、どれも楽しかったです。

部活動の思い出

3年 長田 魅人

僕は野球部に所属していました。3年間を通して、元雄先生、坂下先生、木村先生に御世話になりました。3年間で遠征や練習試合などいろんな県のチームと試合をしてきました。もちろん調子のいい日も悪い日もありましたが悪い日は悪いなりにいかに良くするか考えながら野球をしてしました。人間なので誰でもミスはしますが、ミスをして誰かが補う。それがチームプレーの醍醐味だと思います。

大会では、県大会ベスト8という目標に向かって日々精進していました。目標は達成できなかったけど、目標に向かってみんなで練習をしました。楽しいことも辛いこともありました。

どんなこともみんなで頑張ってきました。うれしいことも辛いことも今では良い思い出です。

3年間も通して礼儀や挨拶など社会に出てすぐ役に立つことを学びました。高校野球はもう1度したくなるようなそんな感じです。この先2度と経験できないと思います。

そう考えると充実した3年間でした。



高校野球夏の大会の感想

3年 岡本 駿

夏の大会は、最後なので少し緊張していました。試合が始まると自分の力が出せたので良かったです。高いレベルを目指し、今まで練習等でやってきたことを出しきろうと決めていました。結果は、勝つことができたので嬉しいです。

この試合を通じ、今のメンバーと1試合でも多く野球をしたいという思いが強くなりました。僕は、プレーで引っ張っていけるよう頑張ります。次の相手は強いですが、自分達の野球を最後までやり抜き、相手よりも一点でも多く取ります。今までお世話になった先生や母や父に感謝して、次の試合に臨みたいですね。目標はベスト8なので、そこを目指すため『一球入魂』一球を大事にして試合も練習もしていきます。

僕は小学生の頃から野球をしてきて、たくさん学ぶことがありました。顧問の坂下先生にはとてもお世話になり、僕の意識や行動を変えてくれました。その先生と1試合でも多く勝っていききたいので、今の一球を大事にしていきます。次の試合も勝ちます！

創立140周年記念式典 生徒代表の言葉



3年 沢辺 小晴

本日はお忙しい中、御来賓の方々をはじめ諸先輩方にご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度をもちまして、石川県立翠星高等学校は、創立140周年を迎えることとなりました。140周年という歴史の節目の場に立てることを、在校生一同、心より喜ばしく思っております。

さて、本校は明治9年、石川県勸業所農業科として設立され、その後何度か改編改称し、平成12年に校名が現在の翠星高等学校となりました。しかし、諸先輩方にとっては「松農」の方が親しみやすいのではないでしょうか。

本校は、これまで県内の政財界に幾多の人材を輩出してきました。また、農業高校として農業人の育成にも貢献してまいりました。しかし、現在農業はたくさ

んの問題を抱えています。そのような中、本校は、「食」と「農」と「環境」をテーマに三つのコースに分かれ、それぞれの生徒が専門教科の勉強に励んでいます。部活動では、今年、野球部が春季大会でシード校を破り三回戦に進出しました。また、陸上部も高校総体で北信越大会に出場するなど活躍しています。他の部もこれを励みに日々の練習に取り組み、着実に力をつけています。

また、食品科学研究会が先の農業クラブ北信越大会において、二つのプロジェクト発表部門で最優秀賞に輝き全国大会への出場を決めました。それ以外の研究会も里山や地域環境保全など、さまざまな活動を通じ地域社会に貢献しています。

授業では、それぞれの専門分野で実験実習などの実地的、体験的学習も含めて、食糧生産や環境の保全・創造に関する基礎的・基本的な知識や技術を広く学ぶことで社会に役立つ人間に、また、新しい時代に向けた農業人になるために日々の勉強に励んでいます。

このように翠星高等学校と校名が変わっても、私たち在校生は、諸先輩方から受け継いだ歴史と伝統という素晴らしいバトンを次の人たちに渡していきたいと思っています。

最後に、私たち在校生は、多くの先輩方と同様、社会に貢献できる人間として本校を巣立っていくことを諸先輩方や地域の方々にお約束し、生徒代表の言葉といたします。



受付係生徒



司会生徒

私達の世界農業遺産を守り続ける契機に



2年 松本 桃花

私は、世界農業遺産シンポジウムに実行委員として参加させていただき、世界農業遺産の重要さとこれを守り続けていこうとする人たちの情熱に感銘を受け、全国から集った農業高校生の皆さんとともに熱い思いを共有することができました。

私達、世界農業遺産シンポジウムの参加者は、産フェア前々日から能登青少年交流の家に集合しました。石川の他、新潟、静岡、岐阜、和歌山、大分、熊本、宮崎の8県から高校生が集まりました。国内の世界農業遺産認定地域の農業高校生が1カ所に集うという場が今回の産フェアで初めて設けられたのです。私は、世界農業遺産について学びを深めることは勿論ですが、交流の輪を広げたいという希望を持って参加しました。エンカウンターや世界農業遺産クイズ、熊本県への書ききなどを通して交流がどんどん深まってきました。世界農業遺産クイズでは、他県の人とグループを作り、難しい問題にもみんなで相談しながら解き進めていったことも仲良くなれたきっかけとなりました。

エクスカージョンでは、能登の世界農業遺産を見学しました。輪島朝市、千枚田、塩田村、ボラ待ちやぐら、千里浜を巡り、講師の方から色々なお話を聞かせていただき、体験させていただく中で、「能登の世界農業遺産は、情熱を持って伝えていく人がいるからこそ継承されていくのだ」という思いを強く感じました。

シンポジウムでは、開会式の後、8校の発表に聞き入りました。農業高校生がそれぞれの地域で世界農業遺産を大切に、誇りを持ちながら活動に取り組んでいる内容に大変感動しました。これからも私たちは、それぞれの地域で、それぞれが責任を持って世界農業遺産を守って行かなければならないという志を確認できた大会でした。



充実した産フェア、ありがとう



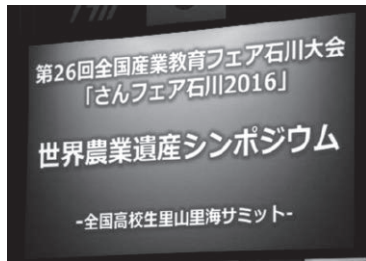
2年 宮窪 哲生

私は最初、世界農業遺産シンポジウムの実行委員に選出されてもあまり実感が湧きませんでした。しかし、産フェアが近づくにつれ、上手くいくかなという悩みや緊張感が高まってきました。また、他県の高中生と交流し仲良くなれるのか、シンポジウムをスムーズに進行できるのかなど、いろいろと不安でした。

エクスカージョンに先立ち、能登青少年交流の家に宿泊し交流が始まりました。シンポジウムの打合せとともに親睦を深めることがねらいなのですが、最初はみんな緊張していました。しかし、ゲームやクイズを進めていくうちに仲良くなっていました。最初はお互い遠慮していましたが、時間の経過とともに話すことが楽しくなっていました。翌日、石川の世界農業遺産「能登の里山里海」を見学し、いろいろ体験することもできました。修学旅行のように、みんな打ち解けてワイワイと研修することができました。記念写真も撮りながら、世界農業遺産の地を巡り、理解を深めていきました。

シンポジウム当日は主にステージ運営を担当し、机や椅子を素早く移動・配置したり、映像スライドの操作などの役割を担いました。多少ドタバタする場面もありましたが、何とか乗り切ったという実感が残りました。特に印象的だったのは、シンポジウムの最後に写したステージ上での集合写真でした。みんな充実感がいっぱい、やりきったという雰囲気が十分に出ていました。そして、お別れの時がやってきました。最後はバス乗り場まで他県の参加生徒を見送りに行き、握手やハグなどを交わしながら別れを惜しみました。すごく感動的でした。女子はみんな泣いていました。

私は実行委員を務めたことで、様々な人たちと一緒に活動や交流ができ、自分自身が大きく成長できたと感じました。それほど充実した大会でした。みんな、本当にありがとう。



六星賞を受賞して

3年 上田 梨々花

3年間プロジェクト活動を行って思うことは、1年生の頃「プロジェクトをやってみないか？」という先生の誘いを断らなくて良かったということです。

1年から2年にかけては、「野々市市産ヤーコン」についての研究活動をしていました。そこでは何もないところから記録簿を作る大変さや誰にでも分かりやすい説明文の作り方、基本の実験方法などを学びました。1つ上の先輩と読み練習を重ねて臨んだ全国大会は、2年連続優秀賞でした。3年では、「金沢ゆず」についての研究活動を行いました。1からの記録簿作りでしたが、2年間行ってきたことが身に付いていたからか、1年の頃よりもクオリティが高く、時間的にも余裕を持って仕上げることができました。

今回の大会は、自分が最上級生で代表者ということもあり緊張でいっぱいでしたが、一緒に頑張ってきたメンバーと今までで一番良い発表で、「最優秀賞」を獲得することができて嬉しかったです。3年間のプロジェクト活動を通じて、地域とつながることの大切さを知ることやプレゼンテーション能力を身に付けることができたし、何事にも全力で取り組めば辛くても楽しめることと知りました。楽しいこと以外に辛いこともあったけど、充実した高校生活になったので諦めなくて良かったなと思います。高校生活で学んだことや身に付けたスキルを使って社会人生活も頑張っていけます。



校内陸上記録大会で8年ぶり男子200m走大会新!

3年 大谷内 陸

「男子200m走」で8年ぶりに大会新記録（23秒

49）を出すことができました。予選から力まず、気持ちの良い走りをするのを心掛け、決勝では、「今後、絶対に抜かれない記録をつくるぞ」という強い思いで走りました。最後の30mで力んでしまいました。高校最後の校内陸上記録大会で、大会新記録を出すことができたのでとても嬉しかったです。

高校生活を振り返って

3年 野々村 くるみ

今振り返って思うことは、高校生活が一番楽しかったということです。中学校もそれなりに楽しかったのですが、高校は勉強ばかりではなくてコースの実習もあり、様々なことをたくさん学ぶことができました。

特に昨年開催された「全国産業教育フェア石川大会」の実行委員になれた時は、とてもうれしかったのを覚えています。石川県の良いところを他県の高校生達に知ってもらえたし、私達も他県の良いところをたくさん知りました。各県の実行委員達とも仲良くなり、別れがとても悲しかったのを今でも思い出せます。

来年は専門学校へ進学するので、今より自由な時間が減ると思います。辛くなっても高校生活の思い出を胸に、頑張っていきたいと思っています。

高校生活を振り返って

3年 円角 圭吾

3年間を振り返り、私が一番印象に残っているのは、バドミントン部での活動です。特に今年に加賀地区大会では、後輩と組んで人生初のベスト8に入りました。

先輩が引退してから、部長という立場になり、楽しかったことや辛かったことなど、様々なことがありました。色々な壁を乗り越えたからこそ、ダブルスで良い成績を残せたのだと思います。

部長として、練習メニューを考えて部員をまとめるのは大変だったけど、今になって、後輩達が素直に聞いてくれたことに救われたと感じています。この3年間は技術だけでなく、人間力や忍耐力も同時に向上させてくれたし、今まで支えてくれた先輩や先生、後輩そして同級生のメンバーには特に感謝をしています。

1年生の時は人数が少なく、何度か辞めたいと考えた時もありましたが、続けるにつれてどんどん楽しく

なり、笑う場面が一番多い時間になっていきました。色々なOBや先生と話す機会も増え、知らないうちにコミュニケーション能力の向上につながっていったのではないかと思います。部活動を続けて良かったです。

高校生活を振り返って

3年 末 彩夏

3年間を振り返ってみると、楽しかった事や思い出に残った事、頑張った事など色々ありました。

私が一番頑張ったのは部活動です。卓球部に入部した頃は、何も結果が出ずダメダメだったけれど、3年間、他の部員とともに日々の練習を頑張った成果を、最後の大会で結果として残すことができた時は、「自分に自信が持てるようになったな」と感じました。

部活動は、自分が成長できる場であると思います。休みがちになり、みんなに迷惑をかけた時もありましたが、何とか克服し改善できたかなと思います。卓球部を続けてきて良かった。ありがとう！

43年ぶりの日本一



教諭 安川 三和

「夢は全国最優秀！」を合言葉に挑み続けて5年。遂に今年、農業クラブ全国大会(岡山大会)プロジェクト発表会分野Ⅱ類において念願の最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。石川県がプロジェクト発表で最優秀を受賞したのは、本校が松任農業時代の昭和48年と49年でした。実に石川県内43年ぶりの受賞となりました。

食品科学研究会は、本校に5つ設立されている農業クラブ活動を行う研究会のひとつです。放課後や土日を使って、白山米粉の普及や規格外白山トマトの活用、ののいち健康野菜ヤーコンの加工品開発、加賀丸いものスイーツ化など、様々な地域農業の課題に挑戦してきました。平成24年には、食品科学研究会内に模擬株式会社SUISEI-FACTORYを設立し、6次産業化コンサルタント事業にも挑戦してきました。

プロジェクト発表は、「研究内容」「活動記録簿」「10分間の発表」「質問への解答」で得点を競い合い

ます。平成25年に前任者より食品科学研究会を引き継ぎ、競技のノウハウがほとんど無い中、歴代の生徒と共に試行錯誤を繰り返し、一歩ずつ歩みを進めてきました。今年プロジェクトの中心となった3年生は、1年次、2年次と2年連続優秀賞の受賞に留まったため、「最後の年に最優秀賞を！」という想いが強かったと思います。私自身もチャンスの年と思い、研究会活動に没頭しました。特に今年注力したのは、チームワークです。研究会活動を進める上で、大小様々な壁にぶつかります。そんな時は常に部員10名全員で話し合い、解決の道を探りました。解決困難と思われたことも、話し合いの中で解決法が見えた事が何度もあり、私自身チームワークの力を再確認できました。

夏休みを費やして全員で仕上げた「活動記録簿」は482ページにも及び、5月から大会前日の10月23日まで質を高めるために練習し続けた「発表」は、練習でも過去最高の出来となりました。万全を期して6名で挑んだ全国大会。ところが、岡山県へ向けた出発当日は台風の影響で電車が不通…、急遽米原駅まで本校の恩師であり先輩でもある先生に送っていただきました。さらに、前日の発表リハーサルでパソコンが投影されないなどトラブル続き。それでも生徒達の心は折れることなく、本番では一致団結したノーミスの発表を行ってくれました。

本校生徒達は、今回の受賞を通して「地道な努力は必ず実を結ぶ」ということを学んだと思います。このことを糧としてこれからの人生を実りあるものとして欲しいと思います。また、本校141年の長い歴史を受け継ぐ者としての誇りを新たにし、今後も生徒達と共に「食」・「農」の大切さを伝え広める活動を行っていきたいと思います。本校に関わる皆様のご支援・ご鞭撻をよろしくお願いします。



私と「GLOBALGAP」

3年 川上 大河

最初は「GLOBALGAP」という言葉も聞いた事がなく、何も分からないまま活動が始まりました。正直みんなあまり気が乗らなかったのですが、認証を取得するにあたり、GLOBALGAPのことを調べ、様々な説明を受け、何より今後の農業のことを考えた時に、自分たちも頑張ろうと本格的に活動が始まりました。しかし、いざ活動を始めようとした時に、何からして行けば良いかも分かりませんでした。そこで、卒業生でもある有限会社安井ファーム代表の安井善成さんに協力を得て、一つ一つ丁寧に教えていただき、少しずつですが理解することができました。

安井さんのご協力のおかげで、何とか私や仲間たちも本格的に取り組みを開始することができましたが、新たな課題がありました。理解したものの今度はGLOBALGAP認証への難しさに直面したのです。様々な難問の壁にぶち当たり、そして戸惑いながら仲間と相談し、先生方にも助けていただきながら、何とか一歩一歩少しずつ前進しました。認証を受けるための審査日が近づく頃には毎日必死でしたが、今思うととても良い経験でした。

審査日当日は、とても緊張しましたが、何とか今まで取り組んできた成果を発揮し、北陸の高校では初となる最難関の「GLOBALGAP」認証を取得することができました。認証の報告を受けた時はとても嬉しく、今まで取り組んできたことが報われて本当に良かったと思いました。本当に大変な作業と時間を費やしましたが、この経験ができたことは私にとって大きな財産になりました。今は、卒業後も就職先でこの経験を存分に発揮したいと思っています。



GAP隊のメンバー

応援団長として

3年 松田 拓也

僕は、高校生活で初めて応援団に入りました。応援団員の集まりで、2年生からすすめられたこともあり、頑張ろうと思い団長になりました。しかし、全校練習ではなかなか上手いきませんでした。大きな声を出してくれず何度もやり直しましたが、テンポ良く進めることができなかったのが、不安しかなかったです。

私が、昨年や一昨年の団長のようにできずに困っているのを助けてくれたのは、応援団のみんなや先生方です。たくさんの人に助けられ、最後の練習では生徒全員が声を出し、とても良い応援ができました。

迎えた高校野球夏の大会では、みんな大声で一致団結し、精一杯応援しました。残念ながら試合は負けてしまいましたが、応援団長として様々な経験ができ、多くの人に支えられたからこそ、頑張れたことを実感できました。「人を応援することは、自分も応援される。」人とのつながりの大切さがわかりました。

文化祭を振り返って

1年 石井 安妮

今年の文化祭は、私にとって高校生活で初めての文化祭でした。最初は、「楽しいのかなあ」と思っていたけれど、思った以上に楽しくて良い思い出になりました。とりわけ感動したことは3つあります。1つ目は、「天球ピンポンズ」のライブです。昼休みの放送で聞いた時からいいなと思っていたら、ライブは迫力と美しい歌声で素晴らしく、ファンになりそうです。2つ目は、「芸能王選手権」です。どれもテンションが上がり、面白くて可愛くて「青春だなあ」と思いました。特に先生バンドがかっこよくて幸せな時間でした。3つ目は「学校公開」です。私は、部活でスイーツショップを開きましたが、長い行列で開店早々に売り切れが出るほどでした。常連の方も多く、翠星スイーツは「好かれているのだな」と思えたり、徐々に商品が減っていくのを見るのが嬉しかったです。そして、なんと369個のスイーツを完売することができました。大変だったけど作り甲斐もあったし、完売した時は本当に嬉しくて感動しました。来年はもっと作りたいです。3日間充実した日々でした。

全国大会に出場して

2年 福村 月菜

私たちは、北信越大会で最優秀をとり全国大会に出場できました。北信越大会ではPCのスライドが重く、何カ所か固まってしまうことがあったため、全国大会でスライドが映るか、練習どおりミスなく押せるか等、北信越大会とは比べ物にならないほどの緊張に襲われました。県連大会からずっとPCという大事な役を任せてもらい、嬉しい気持ちもありましたが、私のせいで発表が台無しになるのではと毎日不安でした。

リハーサルの時、場の雰囲気のにまれ、初めの返事が小さくなってしまいました。今まで一生懸命練習してきたのに、一年生も私も初めての全国大会でしたが、この初めの返事で緊張を吹き飛ばせるほどの返事ができなかったことは、心が負けているからだと感じ、恥ずかしくなりました。まず一番に先輩の私が一年生の不安を押しつけて大きな返事をし、安心させてあげるべきでした。このリハーサルで、私の駄目なところを知ることができたので、しっかり向き合って直していきたいと思います。PCは一台目が上手く映りませんでしたが、二台目は映ったので、少し安心できました。発表会の朝、ホテルでの最終練習でもPCにトラブルがありましたが、本番では映すことができました。PC押しのタイミングも練習どおり上手いき、無事に発表を終わらせることができました。

残念ながら、最優秀賞を獲ることはできませんでしたが、不安を共有し合い乗り切ったこのメンバーと一緒に全国大会に出場できて良かったです。来年も同じメンバーで全国大会に出られるように頑張りたいです。



農ク全国大会平板測量競技で日本一を目指して

3年 中西 海斗 野村 大聖 請田 慎吾

私たちは、平板測量競技で全国大会に出場しました。開催地は鹿児島県で、大会日程は、10月23～25日でした。23日のうちに鹿児島まで移動し、24日が競技日で、25日には大会式典及び閉会式がありました。

私たちは、5月に国家資格である「測量士補」にチャレンジしましたが、あと一歩で合格に届きませんでした。その悔しさを胸に秘めて、競技の練習に打ち込みました。7月上旬から練習を始め、8月3日の県連大会で最優秀をとり、石川県代表に選出されました。

その後は、8月下旬から練習を再開し、9～10月にかけて合計90枚以上の図面を作成しました。特に2学期が始まると、6時30分に登校して朝練を行い、平日は1日2回、休日は3回以上の練習を行いました。さらに、雨の中や風の強い日にもあえて全国大会を想定して取り組みました。練習成果は、良い時もあれば悪く出る時もありましたが、回数を重ねるうちに上手に仕上げられるようになりました。また、学校のグラウンドは水はけが良く、平坦で測量しやすいため、あえて近隣の若宮公園や松任総合運動公園へ行き、傾斜や凹凸のある芝生面での練習も頻繁に行いました。

こうして迎えた大会本番は、まず会場に着いた際に多くの係の生徒がいて、たいへん驚きました。また、競技会場は思っていたよりも平坦で開けていました。競技開始前にはできるだけ緊張しないように、失敗しないようにとの思いから、なるべく3人での会話を弾ませながらテンションを上げることで、みんなの集中力を高めました。

競技が始まると、踏査ではNo.1～2の測線が1測長以上ないと判断したのに実際は30mを超えているなど、想定外の出題に戸惑いましたが、徐々に普段の自分達を思い出して調子を取り戻し、一次作業はほぼノーマスで終わることができました。二次作業も多少ハブニングはありましたが、時間内に終わることができました。しかし、三次作業では三斜法チームが制限時間内に終えられなかった上、終了の合図を間違え、「終わります」と声に出してしまったため多少焦りました。

競技終了後3人で振り返りながら、小さなミスについて1つ2つ指摘し合いました。しかしながら、閉合誤差が3cm(満点)で面積格差も2㎡以内(満点)であることを確認し合うと、とてもやりきった感で満たされました。結果優秀賞をとることができましたが、ひょっとしたら…、後少し頑張れば日本一に手が届いたかもしれないとの思いもありました。それでも全国大会で良い結果を残すことができ、たいへん良かったです。努力次第によって結果を変える事ができることを学べた、一生に一度の素晴らしい大会でした。

六星賞を受賞して

3年 太田 風音

今回、「六星賞」をいただくことができ、とても嬉しく思います。3年間、私が農業クラブ活動に打ち込めたのは、研究会の仲間や先生方、そして地域の方々などのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

私は、高校生活3年間をこのプロジェクト活動に捧げてきました。入学当初は、「農業」にあまり関心がなく、「農業クラブ」や「プロジェクト活動」についても、自分には関係のないことだと考えていました。しかし、食品科学研究会に入部し、その考えは変わりました。入部してすぐプロジェクト活動について説明を受け、プロジェクトメンバーに選ばれました。何もわからないまま、必死に先輩についていった初めての全国大会では、県内では43年ぶりの最優秀賞を獲得しました。表彰式で堂々と登壇するプロジェクトリーダーの姿は本当にかっこ良く、私のあこがれとなりました。その翌年、先輩が卒業し、私がプロジェクトリーダーを務めることになりました。リーダーを務め、仕事量の多さやチームをまとめることの難しさを知りました。大会本番はミスなく発表を終えることができたのですが、前日リハーサルで「はい！」と全員で返事をするはずが、練習通りの声が出ず、士気を高めきれなかった失敗があり、リーダーとしての未熟さを痛感しました。結果は優秀賞に終わり、悔しかったです。

最後の年である今年は、「二度目の最優秀賞をとり、先輩のように全国大会の表彰台に立つ」という目標を胸に、活動に励みました。日々の研究活動では、36都府県に電話をかけ、研究の普及を行ったりと今までになく大変でした。さらに、今年は1年生4人を含めた全く新しいチームでの発表だったため、初めて参加する一年生にとってはかなり厳しいことも言ったと思います。ですが、最後までついてきてくれて、本番は返事から退場まで完璧な発表になりました。昨年とは違い、リーダーとして最後までチームを引っ張ることができ、結果、最優秀賞を獲得することができました。先輩の力ではなく自分たちの力で最優秀賞を獲得し、堂々と表彰台に立つことができました。本当に嬉しく、努力は必ず報われるということを強く実感しました。

卒業後は、この3年間を活かし、地域社会で活躍できるような人材になれるよう頑張ります。

全国高校生パンコンテスト
パン祖のパン祭大賞

3年 南川 直輝

私は、1年生の時から食品科学コースPAN-BUに所属し、パン製造を学んできました。

今年、念願の「第14回全国高校生パンコンテスト地産地消部門」に出場することができ、4部門のグランプリである「パン祖のパン祭大賞」を獲得しました。大賞が発表された時は、心が飛び出るくらい嬉しかったです。パン製造練習、発表練習、質疑応答練習を最後までめげずに、頑張り抜いて本当に良かったと感じています。本番当日の実技試験は、慣れない環境で戸惑いましたが、トラブルにも臨機応変に対応でき、練習成果を出し切ることができました。プレゼンテーションも緊張しましたが大きなミスもなく楽しんでできました。先生方には丁寧かつ厳しく指導していただき、本当に感謝しています。春からは専門学校でパン製造技術を磨き、一流のパン職人を目指します！



生徒会役員を務めて

3年 福岡 愛理

私は生徒会役員を四期務め、様々な経験をさせていただきました。役員を務めた期間は忙しく大変なこともありましたが、濃密で有意義な期間になりました。

当初はわからないことが多く、先輩のサポートや雑務がほとんどでしたが、2年生になると少しずつ仕事を覚え、自分なりに考えて効率的に仕事ができるようになりました。また、先輩として後輩たちと積極的にコミュニケーションをとることに心掛けました。

2年後期には会長となり、学校行事の企画や運営により深く携わることができました。会長を務め、人の上に立つ立場として、敬意を持って人に接することや周りの意見を聴き、自分の行動に責任を持つことなど多くのことを学ぶことができました。

生徒会役員を務めた経験は、将来社会に出るにあたり、役に立つ貴重な経験となりました。会長を務めるにあたり、多くの方々に支えていただきました。ありがとうございました。

JRC部石川県健民運動
青少年ボランティア賞受賞

2年 西山 侑里

私たちJRC部は、石川県健民運動青少年ボランティア賞を受賞しました。石川県健民運動青少年ボランティア賞とは、自発的に自分の技能や時間を提供して社会に参加し、地域や学校、職場において、ひたむきに他人や社会に貢献する活動を行う青少年又は団体が表彰される賞のことです。

翠星高校JRC部を代表して、大家部長と私が11月19日の表彰式に出席しました。石川県庁で谷本知事より賞状をいただき、とても光栄に思いました。

私たちJRC部の活動は大きく分けて5つあります。一つ目は学童クラブ訪問です。週に2～3回の頻度で近隣の学童クラブを訪問し、児童の遊び相手や勉強のお手伝いなどを行っています。二つ目は高齢者施設への訪問です。特別養護老人ホームを訪問し、クリームを用いてのハンドマッサージ、車いすや歩行器具の手入れなどを行っています。三つ目は救急法の練習です。健康、安全への意識を高めるため、救急法の練習に取り組んでいる他、救急法大会への出場やイベントで傷病者が出た場合の対応などで実践力を身に付けていま

す。四つ目は募金活動です。24時間テレビや赤い羽根などの募金活動に参加し、多くの人に募金と呼ばけけるとともに、自らの社会参加意識を高めています。五つ目は、通常の活動以外の活動です。ネパールへの国際交流派遣事業参加やベトナム赤十字からのJRC高校生受け入れなどの国際的な活動にも取り組んでいます。また、いしかわ子ども交流センターなど児童施設での行事の側面支援や百万石まつりでの巡回ボランティアなどの活動も行っています。

これからもさまざまな活動に取り組み、社会に貢献していきたいと思います。

高校生活を振り返って

3年 田邊 魁斗

まるで昨日のこのように覚えている。校庭の桜の道を体よりも大きな制服で歩いた。入学式の日の私を見守ってくれているように思えてワクワクしていた。そして競歩のように早く時が流れ、こうして今、私たちは卒業し、それぞれの道を歩き出そうとしている。

私には走る能力などないし、そして球技もできないが、体を動かすことはとても大好きだ。この学校では農業を通じていろいろなところへ実習に行ったり、田植えをしたりと他の学校ではできないことが多く、毎日が本当に早く感じられて楽しかった。

今、農業高校が注目されている。昨年の高校野球甲子園大会での金足農業高校の快進撃は、「農業ってすごいぞ！」と思わされっぱなしだった。私もこんな風になりたいと思い、競歩を頑張ってきた。なかなか思うようなタイムや結果が出ず、「やめたい、もういや！」と思う日も少なくなかった。しかし、翠星高校の個性あふれる明るさやみんなからの「頑張れ！」との励まし、そしてとても素敵なあだ名？の命名など…本当に嬉しかったし、元気100倍になった。

これから私は大学生となる。そこでも高校ではできなかった青春を謳歌したい。競歩でも入賞したり、好タイムで記録を出したりし、翠星高校の卒業生として、全国にその名を知れ渡る選手になりたいと思う！そのためには、見えないところでの努力や何が何でもやってやるという強い気持ちを維持して頑張りたい。

翠星高校の3年間は、レースに役立つために何が必要かを教えてくれ、スタートラインに一步一步近づけさせてくれた場所だった。ありがとう。

第11回全国和菓子甲子園初出場 初優勝の快挙!



3年 巧 ヒカリ

私は、課題研究で和菓子について研究しています。「まんじゅうには、和菓子の基本的な技術が全て詰まっている!」と職人さんからお聞きし、皆でまんじゅうを研究することに決めました。まんじゅうの製造について一から指導してくださったのが、本校卒業生で「大松庵」という和菓子店を営む松浦さんです。和菓子甲子園でもたくさんお世話になりました。

和菓子甲子園は、全国の高校生が和菓子作りの技術とアイデアを競う大会で、今年のテーマは「青春」でした。青春といえば「恋」だと思い調べてみると、白山比咩神社に恋文を奉納して恋愛成就を祈願する「恋文奉納」という白山市観光連盟が運営するイベントを知り、「奉納恋文」をモチーフに青春の和菓子を作ることに決め、試作を繰り返しました。

私達の和菓子は、石川県産の素材を使用した3種の餡を白い羽二重餅でふんわりと包んだことから“恋つゝみ”と名付けました。何度も試作を重ね、やっと納得のいく作品に仕上がりました。特に巻紙の素材や餡の分量、配置に苦労しました。製造は1時間45分以内で完成させなければいけないため、餡担当と羽二重餅担当に分かれ、製造練習に明け暮れました。私は羽二重餅を担当したのですが、練り上げがとても難しかったことを今でも覚えています。スピードと体力が必要なので、練習が終わると毎回クタクタでした。

また、ご当地菓子化を目的とした試食会にも挑戦しました。10月1日、白山市観光連盟にご協力いただき、鶴来地区の和菓子店をお招きした「恋つゝみ・試食会」を開催しました。とても緊張しましたが、皆さんが私の話を優しく聞いてくださった上に、先生方にもフォローしていただき、無事終えることができました。多くのお店で「恋つゝみ」を製造販売してもらい、白山比咩神社や地元和菓子店の名物になったら素敵だなと思っています。

和菓子甲子園の具体的な活動は、休校明けの6月から行いました。5ヵ月という短い期間にたくさんの経験をしました。人前で話すのが苦手な私でしたが、以前より上手く話せるようにもなりました。また、説明

が苦手よく擬音を使っていたけれど、相手がよりわかるような言葉を使って説明する力も身に付いたと思います。勿論、何度も製造を繰り返したので、体力や忍耐力も養えました。正直、やめたいと思う時もありましたが、後悔をしたくないという想いでやり遂げました。初めは、優勝を信じられず、入賞?と思ったくらいでしたが、最後まで頑張っただけ良かったと思います。応援してくださった先生方や周りの皆さんにはとても感謝しています。ありがとうございます。この優勝経験を自分の強みにしていきたいです。将来は、ブライダル業界へ進もうと考えているため、商品化された「恋つゝみ」を和婚の結婚式で出せる日を心待ちにしています。



石川県文化優秀賞受賞

翠星野球部県大会で 強豪日本航空石川と対戦!

3年 中野 魁人

新型コロナウイルスの影響で、思うような学校生活、部活動ができない日々が続きました。2年生の終わり頃から休校が始まりましたが、すぐに終息して学校も再開すると思っていた。6月になりようやく学校が再開し、久しぶりにみんなで集まって練習ができるようになりました。しかし、甲子園へと続く夏の地方大会が中止になる事を聞いてショックでした。1年生の時から夏の大会で勝つことを目標にし、部活動を頑張ってきたのに大会がなくなり、正直何のために頑張ってきたのだらうと思いました。

そんな中、石川県高野連の方々が何とか独自の大会を開こうとしてくれて、石川県独自大会の開催が決まりました。大会があると聞いた時は嬉しかったし、思いつき楽しもうと思いました。

加賀地区予選では小松市立高校と対戦し、私は感謝の気持ちを強く持って試合に臨みました。結果は、9

対3で勝利しました。翠星に入って公式戦で初めて勝つことができて良かったです。県大会1回戦では、日本航空石川と対戦しました。ヒットで得点圏にランナーを進めるなどチャンスも作りましたが、うまく生かすことができず、結果は5回コールドで負けました。しかし、最後の試合が独自大会で優勝したチームと対戦でき、とても良い経験となりました。日々指導をしていただいた監督やコーチ、そして常に支えてくれた両親には感謝しかありません。3年生最後の大会は、新型コロナウィルスで大変なこともあったけど、このメンバーで最後の試合ができて本当に良かったです。小学校から10年間続けてきた野球を今後の人生に生かしていきたいです。高校野球は楽しかったです!

県連会長になって

3年 丸谷 将也

私は、二年間農業クラブに携わり、そのうちの一年間は県連会長を務めました。これまで先頭に立ってみんなを引っ張って行くような経験がなかったため、当初はとても不安でした。しかし、先生方や役員のサポートのおかげでしっかり続ける事ができ、県連会長としての責任も持てるようになりました。

今年度は、新型コロナウィルス感染症の蔓延により、本県で開催予定だった北信越ブロック大会、そして全国大会静岡大会も中止となりました。私は、県連会長としての大会運営は勿論、平板測量競技会に選手として出場を目指していたので、気合いを入れて頑張ろうと思っていた矢先に、このような事態になってしまい、非常に残念でした。しかも、個人的に楽しみにしていた「リーダー研修会」も開催されず、県内の農業クラブ役員との交流を深める機会が失われました。

そんなコロナ禍でも、県連大会発表大会をビデオ審査で実施したり、農業鑑定競技会は時期をずらして開催したりと、可能なかぎりの工夫を重ねて活動を行ってきました。また、10月の臨時代議員会では、オンライン上での全国の代議員の方々との交流を通じ、他県の農業クラブ活動の様子を知ることができました。

私が県連会長となって学んだ事は、仲間の重要性です。私一人で役員をまとめたのではなく、役員のみなさんに支えられたおかげで、コロナ禍でも様々な活動ができたと思っています。農業クラブ活動や県連会長としてこれまで培った経験は、今後の糧にしたいです。一年間ありがとうございました。

食品科学研究会HACCPチームリーダー

2年 山下 慎二郎

私は、食品科学研究会のHACCPチームリーダーとして、さらに研究会部長として部員をまとめ、「JFS-B規格適合証明合格」に向けての準備をしてきました。夏休みのHACCP製造練習や手順のまとめなど、大変なこともたくさんありました。特に入部したての1年生に、2、3年生と同じクオリティで作業をさせなければならず、チームリーダーとして、気の抜けない日々が続きました。

皆と協力し合って本監査合格にたどり着いた中、「HACCPの考え方に基づいた衛生管理」を行う上で大事な事は、全員が衛生管理のルールについて理解し、コミュニケーションを取り合って活動することであると感じています。HACCPを導入してからは、対象製品のクッキーだけではなく、他のスイーツや加工品の製造においても、以前よりも互いの声掛けが活発となり、スムーズに行えるようになりました。また、冷蔵庫の温度チェック、釜の庫内温度やクッキーのカラーチャートなど、細かな部分までマニュアル化され、以前まではあまり意識していなかった所まで管理されるようになりました。

HACCP導入以前も安心安全な製品を作っているという自負はありましたが、導入後は製品の安全性に根拠を示せるようになったことで、さらに自信を持つことができました。これからも、先輩から受け継いできた食品科学研究会に「HACCPの考え方」を加えて後輩に継承し、お客様に安心安全なスイーツや加工品をお届けし続けたいと思います。



適合証明書とHACCPチーム

第72回日本学校農業クラブ全国大会 令和3年度兵庫大会における次期開催地 生徒実行委員長決意表明

2年 吉村 絵里

皆さん、こんにちは。第73回日本学校農業クラブ全国大会生徒実行委員長を務めます石川県立翠星高等学校の吉村絵里です。石川県連盟4校約500名、富山県連盟5校約500名、福井県連盟3校約700名のクラブ員を代表し、来年開催されます全国大会に向けての決意を述べさせていただきます。

私は、さだまさしさんが作られた「美しい未来へ」がとても好きです。特に「今 私は立つ ふるさとの大地 今 夢に見る 地球の未来 土を起こせ 種をまけ 永遠の花畑を この手で築け」という歌詞が一番のお気に入りです。今私が立つこの場所は、26年前に未曾有の大被害をもたらした阪神・淡路大震災から力強く復興を遂げてできた大地です。想像を絶する困難を乗り越え、「美しい未来へ」の歌詞のごとく、未来を夢見て、決して歩みを止めることのなかった兵庫県の方々の努力と信念。そして、その大震災を知らない世代の私たちがこの地に集い、情緒溢れる景観をこの目に焼き付け、個性豊かな地域文化を十二分に堪能できたこと。真っ先に兵庫県連盟の皆さまに敬意と感謝を申し上げたいと思いました。

また、コロナ禍という状況下でも、「必ず大会を成功させる。」という皆さまの想いが一丸となって伝わり、大変感動し、そして勇気づけられました。この想いをしっかり受け止め、バトンを引き継ぐことが私たちの役割でもあると深く実感いたしました。兵庫大会のご成功本当におめでとうございます。この素晴らしい大会に参加できたことをとても嬉しく思います。

さて、来年の全国大会は、平成24年度長野大会以来10年ぶりに北信越ブロック連盟がお引き受けし、北陸大会と称して石川・富山・福井三県での開催を予定しています。私たち北陸大会は、「北陸に集いし若き精鋭 今こそ実れ豊作の時」、「稲穂揺れる豊かな大地 我ら農クの魂輝く」のスローガンのもと、コロナ対策に万全を期し、参加される全国のクラブ員が安心して日頃の学習成果を発揮することのできる大会を目指し、準備を進めております。また、三県が一つとなり、豊かな風土、文化、そして北陸らしい温もりを発信するとともに、新たな感動に心躍らせ、夢と希望にあふれる大会となりますよう精一杯努め、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第72回日本学校農業クラブ全国大会での 最優秀賞

1年 平田 歩美

今回の全国大会では、今までの練習をしっかりと発揮して一番良い発表ができました。そして、その発表で最優秀賞をとれたことが本当に嬉しいです。

プロジェクト発表の練習を始めた頃は、まだ全国大会はとても遠く、想像もできないほどでした。ですが、県連、北信越と大会を重ねていくごとに全国に近づくのが分かり、不安もありましたが、期待がとても大きくなっていきました。コロナの影響で活動できる時間が減り、満足に練習できない時期もありましたが、最終的にはこうして全国という舞台で、チームが一丸となって良い発表ができたことがとても嬉しいです。

現地に行ってからは、大会への緊張で不安もありましたが、リハーサル of 空気や記録簿を見て「私たちが一番だ」という自信を持てたおかげで、本番は思っていたよりも落ち着いて発表できました。とても良い発表をすることができたので最優秀賞をとる自信はあったけど、結果発表の時はとてもドキドキしていました。

私たちがこうして最優秀賞をとることができたのは、最優秀賞という目標を達成するために、それぞれが努力を積み重ねてきたからだだと思います。全員がそれぞれ精一杯がんばってきた結果が発揮できて、本当に良かったと思います。私はまだ1年生なので、これから先もたくさんの方にチャレンジしていきたいです。

農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞

3年 忠村 隼

私は平板測量競技で全国大会に出るのが初めてだったので、当初は分からないことだらけでした。大会に出場してみて、他県のチームのこの大会に向けてのやる気がすごかったことがとても印象に残っています。

私たちは、夏休みの毎日朝7時から練習を開始し、計50枚以上の図面を作成して大会に臨みましたが、静岡県のチームは県連大会で8チームが戦ったと聞き、他県のレベルは高いと感じました。そのような中でも、今回私たちは優秀賞に輝くことができたので、本当に良かったです。一次作業でわずかに誤差が出ましたが、二次と三次作業で普段の実力を発揮して、練習を重ねてきた図解法により誤差を修正し、面積格差

を2㎡以内に入れることができたため、この結果につながったのだと思いました。限られた練習量の中で結果を出せた要因は、質の高い練習をしてきたからだだと思います。

学校生活の中で唯一の全国大会に出場でき、優秀賞をとれたことがとても嬉しかったです。「全力とは、全員の力である。」という言葉が心の中にあったからこそ、ここまで来れたのだと思っています。

石川県高等学校測量技術コンテストで 最優秀賞

2年 岡島 拓真



石川県測量技術コンテストに出場して、今回は運良く、Aチームが最優秀賞、Bチームが優秀賞という結果となり、とても嬉しく思っています。

土砂降りの雨の中の水準測量は、いつもより時間がかかってしまい、規定時間の60分を超えてしまい焦りもあったが、市村先生から「時間よりも精度。どれだけ早くても、精度が悪いと結果は出ない。」と言われたことを思い出し、「時間をオーバーしてもいいから、今までどおりにしっかり測定しよう。」とチームで取り決めたことで、今回のような結果につながったと思っています。平日1～2時間、土日は半日～一日、祝日や代休まで使って練習に付き合ってくれた先生のおかげだと感じました。さらに、チームワークや思いやり、仲間を大切にするという大事なことを学ぶことができたと思います。今回のことを生かし、来年北陸で開催される農ク全国大会の平板測量競技でも、仮にチームメイトが変わったとしても一丸となり、今回のような良い結果を残せるように努力したいです。

生徒の琴線に触れる時

教諭 市村 実

「ここ数年は、食品科学コースの活躍ばかりが目立つが、他のコース・分野は何をしているの？」との声

が漏れ伝わる昨今でした。

本校にて初めて教壇に立ち彼此29年。「翠星LOVE」を合言葉に、時節時節精一杯、生徒に寄り添い、時に背中を押したり、進むべき方向を導いたりして来たつもりでしたが、左様な指摘には明確な返事を見つけれないでいました。

そんな日々でも、ここ数年力を注ぎ込んで来た指導が「測量士補国家試験の補習」でした。本格的に取り組み始めたのは4年前。その年の受験者は3名で、結果は3名共に、あと1、2問のところでは不合格でした。

ようやく結果が出始めたのは昨年でした。土日を中心に200時間超の補習を行った結果、5名中2名が合格しました。翠星高校初の測量士補が誕生しました。そして、今年度は250時間を超える補習時間を経て、3名見事に合格しました。他の工業高校でも毎年数名程度が受験しているとの話ですが、今年は合格者数で金沢市立工業と並び、県内1位になりました。喜ばしいことですが、長期間の補習について来てくれた生徒達の努力の賜物であると実感しています。

また、例年出場している各種測量競技会でも、顕著な成績を収めることができました。「農業クラブ全国大会平板測量競技会」では、3年生が優秀賞に輝きました。この大会は、私自身が長年に渡り、指導に携わってきた競技です。若い頃は、結果に気を取られてばかりでなかなか勝てない時期もありました。しかしながら、競技に携わってくれた生徒達が変化し、成長し、自立してゆく姿に触れているうちに、競技の練習期間が掛け替えのない楽しい時間に変化しました。一方、県内の工業高校と例年測量技術を競い合う「石川県高等学校測量技術コンテスト」では、2年生が1位2位を独占しました。寒冷前線通過中の豪雨真っ只中での水準測量競技でしたが、生徒達は学んだ技術をひたすら発揮しようと真剣でした。そんな姿に私自身が背中を押されていることに気付かせて貰えた1年でした。

私は、測量学の知識や技術を教えている時が一番楽しいです。それは若い頃からそうでした。ただ、その対象が松農・翠星の生徒だからこそ特別なのかも知れません。やはり、たくましい自我を形成し、人格を完成させてゆく生徒達との出会いは、私にとっても掛け替えのない3年間だったのです。

大蔵同窓会会長が松農校長時代に、「心の琴線に触れる」というお話をされました。今から20年以上も前のことです。私は今年で52歳になります。ようやく、その話の意味が理解できるくらいの経験を積むことができたのかも知れません。

日進月歩

3年 森 信之佑

私は、高校生活で二度生徒会長を務めました。生徒会活動では、朝の挨拶運動やスポーツ大会、文化祭を中心とした行事の運営や準備など、生徒の代表として、恥じない行動をしようと精進して日々生活してきました。

初めて生徒会長を務めた2年生の時は、自分が学校の代表だという自覚がなかなか持てず、積極的に行動する力が少し足りていませんでした。それらを踏まえ3年生になってからは、仕事をこなしていくうちに人前に出る力がついたり、コミュニケーションをとる力がついたり日々成長を続け、人と人とのつながりの大切さを知ることができました。そして、少しずつ生徒会長としての自覚を持つことができました。

私は生徒会に入ったことで、仲間と協力することの大切さや的確に物事を考え、行動に移すことの重要性も知ることができました。そして、何より生徒会メンバーとの時間は楽しいものでした。これからも、私は生徒会での経験を活かし、人との対話を大切にしながら、助け合うことを忘れることなく精一杯努力して生きたいと思います。私を支え、応援してくださった生徒会のメンバーや先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。



時代を掴む

2年 安部 蓮滝

生徒会とは何か？そう問われた時、皆さんはどう考えるでしょうか。私は、生徒の自由と規律を守る存在であると考えています。この学校の生徒会に所属してから、「これが天下の生徒会である」というような活動がまるっきりないことが正直不満でした。そこで、私が会長になった今、生徒会をそして、翠星高校全体を一步前進させるために尽力しようという思いの下、日々活動しています。

私は、具体的な行動は緻密な計画や民主性を得ることではか成しえないと思っています。だからこそ、生徒一人ひとり皆さんの意見が必要であると思います。すなわち、この高校に変革をもたらすために皆さんの力をお借りしたいのです。

生徒会のメンバーとともに、この学校がより良く生活しやすい学校になるように頑張っていくとともに、各イベントの運営スタッフとしてイベントがスムーズに進行できるようにしたいです。文化祭での反省を基に、これから行われる二度のスポーツ大会を成功させられるようにしたいと思っています。

まだまだ未熟ではあるものの、この学校を改革するために生徒に寄り添って高め合っていけるよう、これから尽力していく所存です。今後の生徒会活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。これをもちまして、会長挨拶とさせていただきます。



修学旅行を通して

2年 小津 奈緒

私は修学旅行を通して、友人と仲良くなることができたと思います。最初で最後の修学旅行でたくさんの思い出をつくることができたのも良かったです。

特に印象に残った場所は3つあり、1つ目はハウステンボスです。それまであまり話したことがなかった人と話ができて仲良くなれたことや観覧車からの景色やイルミネーションがとてもきれいでした。

2つ目はホテル内でのことです。3日間、疲れ切って3人とも消灯時には寝ていましたが、友人たちとは家が遠いため普段遊べなかったり、一緒に泊まることなどもできないため、ずっと一緒にいれるのがとても嬉しかったし、楽しかったからです。また、朝起きてテレビを見ながら一緒に歯を磨いたり、準備をしたり、まるで姉妹みたいでなんかいいなと思いました。

3つ目は長崎原爆資料館の見学です。原爆資料館は、日本人として戦争の怖さや残酷さを知るためにも、1回は行って見たかったからです。覚悟はしていたつもりでしたが、実際の展示物を見ると、言葉を失うほどとても衝撃的でした。特に壁に写ったはしごや人の影、焼け倒れている親子の展示がとても印象的でした。他にも、原爆が落とされた日の絵日記に、その日の天気良かったことやその日していたことが書かれてあって、核は一瞬にして、青くきれいな空や楽しい時間を奪い去ってしまったのだと悲しい気持ちになりましたが、反面、もう絶対にそのようなことがあってはいけないという想いが強くなりました。私は、修学旅行を通して、友人と良い思い出をたくさん作り、修学旅行という名のとおり、原爆やお城等、日本が歩んだ歴史についても学ぶことができて良かったです。

文化祭を振り返って

1年 山崎 由奈

私は、今回の文化祭を通じて、クラスのみんなで協力して一つのものを作り上げることができ、文化祭前より全体での団結力も上がり、すごく良かったと思いました。フォトブースを作るのはとても大変な作業が多かったけれど、他の企画の準備にあたっている友人が手伝いに来てくれてとても助かりました。そのお

かげで、フォトブースも無事に完成することができ、とても嬉しかったです。

次に、芸能王選手権では、吹奏楽部の素敵な演奏や先輩方の歌やダンスを聴き、どれもとってもクオリティが高かったし、一緒に手拍子などで応援もできて、とても嬉しかったです。自分のクラスの準備だけでも忙しいのに、それプラスで芸能王の準備や練習もやっていたのは、とてもすごいなと思いました。

文化祭当日は、一般のお客さんや地域の方々もフォトブースに来てくださり、スマートフォンなどで記念に写真を撮ってくれて、作って良かったなと思いました。大人だけでなく、赤ちゃんや小学生、中学生も来てくれていて嬉しかったです。また、他のクラス企画の映画や射的などもすることができ、とても嬉しかったです。3年生の模擬店で買った食べ物を友だちみんなで食べることができ、外で食べたのは寒かったけどとてもおいしかったです。初めての文化祭で、準備など何もかもが思っていた以上大変だったけど、大変な思いをしながら頑張った分、様々な方々が写真を撮りに来てくれたし、最後にはクラス全員でフォトブースでの記念撮影ができたので、とても思い出に残る良い文化祭になったのではないかなと思いました。



第73回日本学校農業クラブ全国大会 令和4年度北陸大会特集

大会式典における主催者代表あいさつ



3年 吉村 絵里

皆さん、おはようございます。霊峰白山に守られし緑豊かな石川の地へ、ようこそお越しいただきました。第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会生徒実行委員長を務めます吉村絵里と申します。北陸三県12校1700名の農業クラブ員を代表して心より歓迎いたします。

さて、昨年コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で苦心しながらも、新たな試みを重ね、見事成功を収めた兵庫大会の意志を受け継ぎ、私たち北陸大会も準備を重ねてきました。生徒実行委員会は、そのほとんどがリモート開催になりましたが、「TEAM北陸 〜体は Social distance 心は濃厚接触で〜」をキャッチフレーズに、一歩ずつ歩んでまいりました。同じくリモート開催となった春季代議員会では、代議員の皆さんの温かい心遣いに深く感動を覚え、楽しい交流ができました。また、次年度熊本大会の生徒実行委員会の

皆さまとはZoomを用いて交流し、どんなに離れていても想いは共有できることを知りました。

振り返れば、私たちの高校入学時期と全国的なコロナウイルス蔓延時期とが重なり、多くのクラブ員が大切な「始まりの2ヵ月間」を休校期間として失い、その後も、縮小・延期を余儀なくされる学校行事が相次ぐなど、その脅威は衰えを知りません。さらに、今年に入ると平和の祭典であるオリンピックの余韻も覚めぬうちに、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まると、瞬間に世界に緊張が走り、その様相が一変していきました。しかしながら、こうしてご参集いただいた皆さまに直接お会いし、どんな状況であっても決して冷めることのない「農ク熱」を直に肌で感じ、改めて全国大会が開催できた喜びを実感しています。

北陸大会にご支援ご協賛いただいた多くの方々、ご臨席を賜りましたご来賓の皆さま、審査や指導助言にあたってくださった先生方、そして選手の方々やライブでご視聴されている皆さま、農業クラブに関わる全ての皆さまに北陸3県のクラブ員を代表し感謝を申し上げます。最後に、日本学校農業クラブ連盟の更なる発展と持続的な全国大会の開催を心より祈念し、北陸大会に灯った「農ク熱」が、来年度「火の国」熊本県で一層その輝きが増すことを願い、私たちの想いを届けます。クラブ員の皆さま、ありがとうございました。

<大会スローガン> 「北陸に集いし若き精鋭 今こそ実れ豊作の時」
「稲穂揺れる豊かな大地 我ら農クの魂輝く」

<大会シンボルマーク>

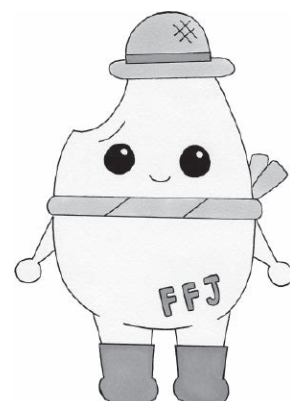


<大会ポスター>



作 新宅紗弥(R3卒)

<大会マスコット>



マイマイくん

大会式典実施委員長あいさつ



3年 宮崎 夢七

約一年の準備期間を経て、第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会は、無事終わりを迎えることができました。本大会の運営に関わってくださった方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たち生徒実施委員は、約1年半前から式典の準備を始めました。しかし、準備といっても何をすれば良いのか分からず、コロナウイルスによる影響で行動制限が設けられている中での進行となり、満足のいく打合せ等ができませんでした。さらに、今回の大会は石川県だけではなく北陸三県での開催となっており、全体的な進行状況の把握や連携を図ることが課題となっていました。そのような中、兵庫大会の視察に行かせていただき、コロナ禍にもかかわらず、笑顔にあふれ、丁寧に対応している兵庫県の皆さんの姿にとても感銘を受けました。そして、自分たちも兵庫大会のように笑顔あふれる大会式典にしたいと強く感じました。

式典運営では、兵庫大会のコロナウイルス対策を参考にし、検温や消毒、入場制限等を行いました。また、YouTubeで配信することで多くの方々に見ていただくこともできました。本番前のリハーサルでは、役員全員が何度も試行錯誤を繰り返し、一丸となってより良い式典になるよう努力しました。このように式典に携わった役員全員が、一生の宝となるような誇らしい体験ができたかと強く感じています。当日は多くのトラブルに直面しましたが、数多くのリハーサルやミーティングを通して培ったチームワークを生かし、臨機応変に対応することができました。これも練習で培われた経験が基にあったからこそできたのではないかと思います。一年半の準備期間では、思い通りの準備・進行ができないことへの焦燥感や不安感を感じましたが、それらを乗り越えることで、ともに結果を残すことができました。そのような仲間たちとは、より絆が深まったと感じ、言葉にできないくらいの感動と達成感を得ることができました。

最後に、来年度の熊本大会ではコロナ禍を脱し、今年よりも大勢のクラブ員が参加できることをお祈りしています。

代議員会生徒実施委員長あいさつ

3年 辻森 さくら

会場にお集まりの皆さんこんにちは。新型コロナウイルス感染予防のため、普段から行っている手洗い・手指消毒・マスクの着用を順守し、皆さんが安心して参加できる代議員会になるよう、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

さて、私たちの学校、翠星高校のある白山市は、金沢市の南西部に位置しており、豊富な海の幸をもたらし、してくれる日本海、県内最大の流域を誇る一級河川手取川や白山手取川ジオパークなど海・川・山の豊かな自然に恵まれた地域にあります。白山市は森林面積が70%を占めており、皆さんのお手元にある名刺は、白山市の杉の木を活用して作成しました。ぜひ手に取って木の質感と香りをお楽しみください。本大会の記念として、名刺フォルダーごとお持ち帰りください。そして、日本で有数の歴史と伝統を誇る農業専門高校である本校は、農・食・環境を主軸に置いた生物資源コース・食品科学コース・環境科学コースの3コースに分かれています。私、辻森と副委員長の麥田は食品科学コースに所属しており、HACCP第三者認証「JFS-B規格」という一般企業でも取り入れられている衛生管理基準でクッキーを製造しています。そのクッキーを2つ目の本大会の記念品としました。こちらの音楽堂は全館、飲食禁止となっておりますのでどうぞお持ち帰りの上、お楽しみください。

全国大会に向け、北陸3県の12校が協力し準備を進めてまいりました。新型コロナウイルスの影響によりリモート会議も多々ありましたが、大会が素晴らしいものとなるよう意見を出し合い、一生懸命取り組んできました。大会中お困りのことなどありましたら、本校の生徒に気軽にお声かけをお願いします。それでは本日1日よろしくをお願いします。



北陸大会生徒実行委員会の軌跡

【第1回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

本日は、わざわざお集まりいただき、誠に感謝を申し上げます。移動に2時間以上もかかってお越しになられている方もいます。北陸3県と言っても、簡単に集まれる距離ではないなど改めて感じました。私は、北陸大会事務局総務を務めます、石川県立翠星高等学校の市村実と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんは、「ドラえもん」をよくご存じですね。ドラえもんは22世紀が舞台の話です。20世紀生まれの私にとっては、遠い未来の物語のような感覚で馴れ親しんで来ましたが、21世紀に生まれた皆さんなら、頑張って長生きすれば実際にドラえもんに会えるかもしれません。私は、最低でも130歳まで生きなければなりません。皆さんは100歳になる前に22世紀を迎える事ができます。実際にドラえもんに会える可能性があるので頑張って長生きしてくださいね。

もしドラえもんに会えたら、何をおねだりしますか。4次元ポケットには夢がありました。実は、ドラえもんの発明グッズが手に入るようになるのはもうすぐなのです。例えば、「タケコプター」はドローン技術の進化によって、実現可能な領域に入っています。すでにドローンタクシーの実験が始まっていたり、ドローンによる荷物の宅配は、許容荷重が増えれば、人間だって運べるようになるはずです。「どこでもドア」、あれば非常に便利ですが、あるのです、もうすぐで。最近CMでよく目にする自動運転技術の向上。そのうち、目的地をセットするだけで、後は映画を見ながらコーヒーを飲んだり、ゲームをしたり、寝ていても勝手に到着するようになるかもしれません。発想次第では、ちょっと時間のかかるどこでもドアと言えませんか。記憶力が良くなるサプリメントがより改良されて「暗記パン」になったり、ドラえもん自体もアンドロイドですから、AI搭載の「ペッパージ」が進化した形かもしれません。何が言いたいのかと言いますと、20世紀に生まれた私たちの叶えたかった未来が、現実ですぐそこまで来ているという事です。

さらに、教育の目標とは、生徒一人ひとりの人格の完成を目指すことです。そのためにも、皆さんに是非この機会に養って欲しい力があります。「豊かな発想力と想像力」です。先ほどの「ドラえもん」の話は、このための長い振りにすぎません。人に発想力が備わると、揺るぎのない信念が芽生え、困難を克服する原動力になります。しっかりとした信念があるからこそ、「Never give up Never surrender」＝「私たちが諦める事を諦めろ」ですね。豊かな発想力は、自分を支え、未来を切り拓く

武器になるのです。

また、想像力を養えば、人に対して思いやりを持つて接する事ができるようになります。想像力があるからこそ人の気持ちが理解できるし、共に喜びを分かち合えるのも想像力のなせる業です。人の痛みに気付く事ができる想像力が自分に備わっているかどうか。それにより、その人の人生が大きく変わって行くと言っても過言ではないでしょう。「豊かな発想力と想像力」は、人にとって必要な「生きる力」です。言い換えれば「未来を創造する力」です。未来を思い描けないと人は希望を失います。叶えたい未来を想像し、実現のための目標を持つことで、努力の大切さを初めて実感できます。生徒実行委員会は、皆さんに色々な目標を与え、皆さんに様々な努力をしていただく場所です。叶えたい未来は、努力することでのみ創造できるのです。そしてその努力を支援するのが私たち教師の役割であると考えます。

「生徒実行委員になることで何が身に付くか。」一ヵ月ほど前、翠星高校の子たちに話をしました。今日という日があるので、敢えて具体的に解答を示しませんでしたが、きっと自分なりの「未来創造力」を各自が身に付けているはずです。そして、そんな君たちが叶えたい未来とはどんな未来か？君たちが努力し、創造した未来と一緒に見てみたいと考えています。

【第2回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

みなさん、こんにちは。昨年度3月末に第1回の実行委員会を開いて以来、なかなか開けなっていた生徒実行委員会ですが、ようやくリモートという形で開催することができました。今日初めて参加する生徒さんもいます。本来ならば新しく加わった皆さんも含め、一人ひとりを紹介するような場面を設けたかったのですが、限られた時間の中でのリモート会議ということで、本日はできません。次回以降許された時間の中で工夫をし、交流を深めてもらいたいです。

さて、突然ですが、普段みなさんは規則を守っていますか？自信をもって「守っている」と答えられる人はどのくらいいますか。リアクションしてみてください。・・・「ありがとうございます。」・・・

なぜ規則を守らないといけないのか、真剣に考えたことはありますか。私はこう思います。周囲に法律を守らない人がいたら、普通に不安を抱きますし、迷惑ですらあります。法律とは、人々が安全に、安心して生活するためのルールで、皆がそのルールを理解して行動することで、思いやりの行き届いた暮らしが保障されと考えます。見つからなければ規則を破っても良いとか、自分さえ良ければ良いといった考えは、犯罪者心理によく

似ています。皆さんの中でも、普段規則を守っている人と守らない人が混在する学校生活に窮屈さを感じる人はいるはずです。では、窮屈な思いをされているのはどちら側の生徒でしょう。実は、規則を守っている生徒なのです。教師はこの現実をきちんと把握しなければなりません。逆に、皆が規則を守るようになれば、それが当たり前となり、規則自体がいらなくなるでしょう。このように、一人ひとりの心の持ち方によって、集団は成熟していきます。成熟した集団が周囲に安心を与えることで、皆がより活発に活動を行いやすくなります。この生徒実行委員会という集団も、皆さん一人ひとりの心と考え方の成長により、いつの日か成熟した集団へと変化していくことを目標とし、それぞれが自覚を持って活動に励んで欲しいです。

【第3回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

今回もリモート会議となりました。また、夏休み中とはいえ分散登校や登校禁止措置により参加できない実行委員もいます。普通にできていたことができなくなる。コロナにより高校生活は一変し、学校行事の多くに制限や制約が加わりました。しかし、そのことをできない事の言い訳にするのではなく、できる方法を考えて工夫する。こういう時代だからこそ、そのような力を身に付ける必要があると思います。

そして、今最も苦境に立たされているのが、兵庫大会実行委員の方々です。私たちの想像をはるかに超えるような困難のもと、全国大会の実施に向け、全力で開催にまで辿り着こうと準備に邁進されています。この兵庫大会事務局の先生方や生徒実行委員会の皆さんに、私たちは感謝の意を示すとともに、その努力に対して敬意を払わなければなりません。なぜなら、誰一人として全国大会の開催を疑わず、開催の希望を最後まで持ち続け、決して諦めない姿勢を貫いているからです。全国の農業高校生の夢や希望を絶やさぬためにも、全国大会は必ず実施しなければなりません。

前回、「一人ひとりが成長することで、集団は成熟する。」という話をしました。当然、人が成長するには努力も必要だし、周囲の支えも必要です。ですが、どんな状況であつても、折れない心さえあれば人は努力できるし、また、ひたすら努力し打ち込むことのできる環境が農業高校にはあるのです。そして、その努力の成果と成長の証を確かめる場所こそが農業クラブ全国大会です。選手として参加する人も運営側として携わる人も、一人ひとりが目標を持って全国大会に参加することがで

きるようになるためにも、生徒実行委員会としての成熟を期待しています。

【第9回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

皆さんに、こうして翠星高校に集まっていたいて開催する生徒実行委員会は、これまで数えるほどしかできませんでしたが、本日が全国大会前の最後の生徒実行委員会です。今日は、取材記録講習会も併せて実施いたします。この講習会を開くにあたって、わざわざ東京より、いつも皆さんが楽しみに拝読している農ク機関紙「リーダーシップ」編集部の方々に来ていただいております。本日はお忙しい中、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この取材記録講習会ですが、全国大会を開催するにあたって、たいへん重要な役割を担っています。各種目の実施委員会においては、お越しになれるクラブ員の皆さんの競技や発表にける真剣でひたむきな姿を逃さずフィルムに焼き付けていただきたいです。また、取材やインタビューを通じて、クラブ員の生の声をリポートすることは、北陸大会の足跡を残し、次年度以降の持続的な全国大会開催のための貴重な資料になるはずです。皆さんが撮影した写真やデータ及び取材記録は、北陸大会の報告書や大会HP、各種出版機関へ提供され、全国から参加されるクラブ員の皆さんの大切な思い出となります。この講習会を通じて、各自がそれぞれの役割をしっかりと認識し、大会運営者としての自覚に目覚めていただけたらと考えます。

いよいよ、開催まで残り3か月を切り、全国大会が目の前まで迫ってきました。皆さんは北陸大会のHPやインスタグラムをこまめにチェックされていますか。事務局では、ここ数日の間に、大会100日前PR動画や北陸大会参加申込要領、各種発表・会議における事前提出書類、平板測量競技実施要領などを大会HPに立て続けにアップしました。さらに今週は、大会申込Webシステムの運用を開始する予定です。今後も大会に関する様々な情報をHPから全国に発信する予定でいますので、定期的に関覧することをお勧めします。

それでは、本日の実行委員会が実りの多いものとなることを祈って事務局挨拶とします。ここまでの道のりは、あつという間であつたようにも感じますが、辛抱強くいつも笑顔で話を聴いてくれる生徒実行委員の皆さんと陰ながら支えてくださる各校の顧問の先生方には、たいへん感謝をしております。どうか、あと僅かではありますが、北陸大会の終焉まで一緒に務めていただきたいと思います。皆さんの力を結集し、北陸大会を大成功に導きましょう。

文化祭を振り返って

3年 日和 唯斗

文化祭は、準備期間からずっと楽しかったです。出し物は唐揚げとパンケーキをしました。準備では看板を作ったり、試作をしたり、テントを張ったりしました。看板は色を塗るだけでしたが、友人と話をしながら一緒に制作できてとても楽しかったです。

1日目の文化教室は、とても感動しました。ミュージカル映画は見たことがあって楽しみにしていたのですが、実際に目の前で演技して歌っている様子を見ると映像では全然違うということがわかりました。一人一人が自分の出番じゃない時も、いろんな表情をしていて、一人で何役もしているのを見て本当にすごいなと思いました。

2日目の芸能王は、どの組もたくさん練習してきたんだと思うパフォーマンスばかりでした。それぞれ違う良さがありましたが、印象に残った3組は、少し違いがあるなと思いました。芸能王に出てくれた人たちのおかげで文化祭が盛り上がったと思います。本当にありがとうございました。

3日目の学校公開は特に大変でしたが、楽しかったです。まず、一年生のお化け屋敷のクオリティが高くて本当に怖かったです。少ない準備期間であれほどすごいものを作っていて、自分の時とは比べ物にならないくらい良かったです。また、模擬店はどのクラスも賑わっており、特にケバブサンドがおいしかったのを覚えています。自分たちの模擬店は、とにかく忙しかったです。唐揚げにはずっと列ができていて、最後に足りないというアクシデントが起きましたが何とか対応し、良い形で終わることができました。

僕は、最後尾で係をしていたのですが、水分補給のため何度か代わって貰えたり、話しかけて来てくれる人もいたりで、楽しんで行うことができました。一番思い出に残っている事は、小さい子供に食券を渡したのですが、その子がお礼にと唐揚げを1つ譲ってくれた時、心がほっこりしました。最後の文化祭は、友達、先生方のおかげでとても楽しく過ごすことができました。

三年間を振り返って

3年 中山 柚奈

私の高校生活は、後先を考えずに様々な事に挑戦できた三年間でした。

一年生の頃は、定期テストで頭がいっぱいで、特に農環のテストだけは100点をとることに全力でした。とある先生の一言で「教師になる」と決めた私は、進学を心に決め、食品科学コースを選択しました。今思えばこの選択で人生が変わったなと思います。

二年生になると、農業クラブ役員、和菓子部、意見発表でとても忙しくなりました。忙しいこと自体は良かったのですが、これがきっかけで三年次の忙しさにも影響を与えたのだと思います。この一年間はほとんど意見発表の記憶しかないですが、その中でも大会式典で司会をした直後に意見発表の選手席まで走ったことは良い思い出です。後にも先にもあまりいない人材だと思うので特別感があって楽しかったです。

三年生になり和菓子部部長や農ク校内会長など、リーダーになることが増えました。農業クラブ役員は、二年次よりも仲が深まり、文化祭のステージはとても楽しかったです。また、和菓子部でプロジェクト発表にも挑戦したのですが、正直ずっと地獄でした。やっぱりもう一度意見発表したかったなと思い続けていますが、嫌なことを全力で頑張れたのも、今後役に立つ日が来るのかなと思います。今まで、目の前だけを見て進んできましたが、進学の際に自分の活動報告書を見て、「頑張りすぎだろ!」と感動しました。

高校三年間を通して、主体的に動くことやコミュニケーション能力を身に付けることなど、たくさん成長することができました。何事もいざやってみると「自分ってこんなにできるんだ!」と自身の新しい可能性を見出すことができます。積極的に動くことの大切さを翠星で学ぶことができました。

翠星を受験して正解でした!



三年間を振り返って

3年 竹中 和葉

和菓子文化が盛んな石川県で生まれ、「和」のついた名前になる。食べることも作ることも好きになる。十歳の時に翠星クッキーに会い、中学二年生の時に翠星高校に入学することを決意する。入学してすぐの意見発表で和菓子を意識するようになり、和菓子部の存在を知って入部する。和菓子屋さんのデュアルシステムに参加し、その和菓子屋さんに就職することになる。卒業後は働きながら和菓子部に関わっていくことになる。なんとまあわかりやすい人生だろうか。仕組みされているんじゃないかと思うほど、流れが安定している。不思議な感じだ。

この人生に深く影響する高校生活。振り返ってみると本当に色々なことがあった。「私は普通の女子高校生です。」と言うと、友達から「普通の意味を辞書で調べてみて。」と言われ、母からはめちゃくちゃ驚かれる程度には特殊な経験をしてきたと思う。例をあげたらきりがないので書かないが、翠星高校に入学して良かったとは、はっきり言えるくらい充実した日々を送ることができた。残り三ヶ月も経たないうちに、この生活が終わってしまうことを寂しく思う。

この三年間の高校生活は、あっという間だった。「光陰矢の如し」とはまさにこのことだろう。卒業後も思い出を大切にしながら、母校である翠星高校に積極的に関わっていきたいと思う。翠星高校は、私の誇りだ。

100年の森 造園分野での取り組み



教諭 高田 葵

本校は、2026年に開校150年を迎えます。昭和51年に行われた100周年記念事業では、4つの様式の庭園（フランス・イタリア・イギリス・日本）が前庭として作庭されました。現在この前庭は、50年近くの時が経過し、鬱蒼とした状態となっています。かつての造園科が造園コースとなり生徒数も減少し、管理が行き届かなくなったためです。本校の正面玄関前の緩くカーブした道の両脇に列植されたタギョウショウも枯

死が目立ち、名物景観としての尊厳が失われています。

そこで、150周年記念を機に約50年前に植栽された先輩方の熱き思いを50年先の未来へ残すため「100年の森」計画がスタートしました。タギョウショウを含む前庭を改修し、管理しやすく見通しのよい、そして、生徒の授業や地域の方々の憩いの場「緑あふれる愛される庭」に生まれ変わろうとしています。まず、私たちはタギョウショウの生育調査を行いました。調査資料は立花造園の社長で樹木医の立花栄志さんから頂いた「樹木地上部の衰退度判定」をもとに実施しました。衰退度は、枯死寸前(V)、著しく不良(IV)、不良(Ⅲ)、やや不良(Ⅱ)、良(I)の5段階で評価されます。58本のタギョウショウを調査したところ、Vが7本、Ⅳが12本、Ⅲが15本、Ⅱが13本、Iが4本ととても悪い結果でした。原因は、状態の悪い粘土質の栽培土壌、そして広がりすぎた樹冠同士や繁茂しすぎた日本庭園により日照が遮られるためだと考えられます。そこで、科目「総合実習」で生徒と共にタギョウショウの伐採を始めました。伐採する樹木は、日照を確保しながら景観を損なわないように選定しています。

今後は、伐採と並行し、前庭全ての残すべき樹木の選定を行う予定です。私が翠星高校生の頃に、4つの様式の庭園を「憩いの場」として利用したことはありませんでした。農学分野で学んだ私ですが、二年前から「造園分野」を担当したことで庭園の魅力を知りました。生徒が気軽に入りたくなるような、遊びたくなるような、そんな「庭に触れる体験」ができる「魅力ある100年の森」の完成を目指し、生徒と共に頑張っています。



栄養と水分が摂れる美味しい非常食を私が作る!



3年 上谷 菊環

令和6年1月1日、16時10分。マグニチュード7.6の大地震が石川県能登半島を襲いました。私は、輪島市町野町にある父の実家で全壊した家屋の下敷きとなり、近所の方々に救出されたのは3時間後でした。

家族で「JAのと町野支店」に避難し、4日間の避難所生活を送りました。備蓄食料は無く、断水・停電・通信不可という状況で、家族5人で紙コップ一杯の水を分け合いました。

2日目、避難者が半壊した自宅や畑から食料を持ち寄って作ってくれた温かいおにぎりやみそ汁。食べると不安や恐怖がスーッと消えました。被災後初めてみんなに笑顔が戻り、「食べることは生きる力になる。」「希望を持つ力になる。」と感じました。

3日目、自衛隊から救援物資が届きましたが、非常食の缶詰は種類が少ない上、クラッカーや乾パンは硬くて食べづらく、粉末スープはお湯がないため飲めませんでした。ようやく5日目に自宅に帰ることができましたが、私はこの経験から「栄養と水分が手軽に摂れる美味しい非常食を作ろう。」と決意しました。

01 美味しい非常食「酒米甘酒羊羹」を開発!

石川県立翠星高等学校の部活動「食品科学研究会」は、地元の生産者から出る処分・廃棄される食品の利活用を力を入れています。地元酒蔵「吉田酒造店」は、石川県オリジナル酒米「百万石乃白」を使って大吟醸酒を製造しています。日本酒製造の過程で出る「酒米削り粉」は低価格で業者に引き取られています。

私たちは、吉田酒造店の依頼で、酒米削り粉に付加価値を付けブランド化する加工品開発に取り組んでいます。酒米削り粉は、粒子にばらつきがあるためふるいにかけて使用します。その際に、約1mm程度の粒が約1割残り、使い道がなく廃棄されていました。製造実習で甘酒は「飲む点滴」と言われるほど栄養豊富だと知り、廃棄している酒米の粒で甘酒を作れば、非常食になるのではと考えました。

02 酒米甘酒の開発

翠星高校では、授業で麴や甘酒を作り、味噌や大根煮

司を製造しています。甘酒は米麴、蒸米、お湯で作ります。蒸し米の代わりに酒米の粒を使用して「酒米甘酒」を試作しました。酒米は雑味が少ないので、酒米ならではのすっきりとした甘さに仕上がりました。しかし、甘酒はどろっとした食感や発酵食品独特の風味に好き嫌いが分かります。また、避難所経験による「トイレ回数を減らそうと水を飲まなくなった」ことや「空き缶や包装ゴミが増えて臭いがきつかった」こと、「乾パンやクラッカーは硬くて喉が渇く」ことなどから、「液体では飲まれないかもしれない」、「甘酒の容器は臭う可能性がある」と考えました。そこで、液体ではなく適度に水分が摂れて、子どもから高齢者まで食べやすい加工品を考えることにしました。

03 酒米甘酒羊羹の開発

甘酒をゼリーに加工してみました。甘酒特有のクセは消えませんでした。そこで、羊羹に加工してみました。羊羹なら小豆を加えることでクセは軽減され、たんぱく質や食物繊維の栄養価が上がるのではと思い、こし餡で甘酒羊羹を試作しました。羊羹にすることで、甘酒のクセは消え、酒米甘酒ならではのすっきりとした甘味を生かすことができました。また、甘酒の水分も加わることで通常の練り羊羹より柔らかく、食べやすい硬さになりました。アレルギー28品目も入っておらず、包装ゴミも臭いも少なく済みます。

04 製品化、そして生産体制

甘酒用の麴は、能登復興のため輪島市にある「(有)川原農産」の米「能登ひかり」を使用することにしました。学校で麴を作り、酒米甘酒羊羹の甘酒を製造しました。しかし、学校では羊羹の量産ができないため、金沢市にある創業400年の老舗和菓子店「(株)森八」に協力を依頼しました。「(株)森八」は、日本三大銘菓のひとつを製造する銘店で、看板商品に「黒羊羹」があります。黒羊羹に酒米甘酒を加えて備蓄用羊羹を製造して頂けることになりました。

クラウドファンディングで羊羹製造費用を集め、被災の大きかった奥能登4市町に5,000本を配布しました。今後も備蓄推進活動を行っていきます。



農業クラブ全国大会を終えて

2年 小崎 晴道

10月23日農業クラブ全国大会がありました。数ある種目の中、私は平板測量競技の補欠として参加しました。もともと測量競技には参加していませんでしたが、県連大会の後に先生から補欠で出場しないかと声をかけられ、参加することになりました。練習に加わってみて感じた事は、授業で習ってきた水準測量とはやり方が全然違うことでした。水準測量はレベルという器械で測量しますが、平板測量は三脚に平板を取り付けて、その取り付けた平板に直接図面を描いていく方法でした。選手たちを見ていると様々な動きをしていて、動作を覚えるのが大変だなと思いました。

しばらくすると、私も実際に練習してみるようになりました。やってみると何をどうすればいいのかすぐには思い浮かばず、動きが固くなっていました。やはり、見るだけでは頭に入りにくく、実際に体を動かしてすることで覚え易くなるのだなと感じました。

大会が近づくとみんなは緊張していましたが、こういった大会は久しぶりに参加するので懐かしい気持ちになりました。石川を出発する22日は、ほとんど新幹線での移動でした。今から大会に行くのだという実感が湧いてきました。23日になり、いよいよ本番の日を迎えました。私はコートから離れて見ていただけでしたが、少なからず緊張していました。作業が終わって3人が帰って来るのを待っている時が1番緊張した気がします。3人から結果を聞いて優秀賞が見えていると分かった時は、一緒に喜ぶことができました。

24日の結果発表の際、優秀賞の中に自分たちの名前が書かれているのを見た時は、すごく嬉しかったです。全国大会ではいろいろな経験をすることができました。来年は進路について考えていく年なので、この経験を役立てようと思いました。



北陸でのイチゴの産業化を目指して



実習教諭 高木 利李

高等学校DX加速化推進事業通称「DXハイスクール」とは、大学教育段階でデジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が目的の事業です。

翠星高校では、令和六年度に「北陸でのイチゴの産業化」をテーマにDXハイスクールに認定されました。現在石川県でのイチゴ栽培は、ほぼ行われていません。理由としてイチゴの需要が一番高まるのが12月～3月頃となりますが、石川県の気候では日照時間が足りず設備コスト等の採算が合わないためです。また、商業化していても観光農園が主となっています。そこで、センサー等を用いてデータを取り、北陸の気候条件の中で栽培できる作型を検討していきます。そして、本校産のイチゴを用いて本校人気商品「イチゴジャム」に加工し、校内六次産業化の実現を視野に入れ、コースの垣根を越えて共に活動しています。

令和五年十月、本校のガラス温室に高設栽培キットを導入して45株の試験栽培を行いました。その時は何もかも手探りで状態での栽培だったので、収量も少なく、形も不揃いになり上手くできませんでした。今年度の栽培では、以前の失敗から学んだ事を活かして1000株を栽培しています。現在はやや生育不良の状態ですが、昨年度より上手く栽培できています。

今後は、北陸におけるイチゴの高設栽培モデルの確立や安定した栽培で本校での六次産業化を目指し、生徒と共に頑張っていきます。



校内会長になって



3年 日野 一輝

私は、農業クラブ役員としての活動を通じて、多くの学びと成長を得ることができました。校内意見発表会やオリエンテーションの運営に携わり、役員同士で協力しながら一つの行事を作り上げる中で、責任感と達成感を強く実感しました。この経験は、私にとってかけがえのない成長の機会となりました。

二年次に副会長、三年次には校内会長として、農業クラブ活動の活性化に取り組んできました。毎朝のあいさつ運動や放送活動に加え、文化祭では芸能王への出場、オリエンテーションでのFFJダンス披露など、会長として幅広い活動に挑戦しました。また、中学校での学校紹介や翠星高校創立150周年に向けた新制服考案に参加し、貴重な経験を積むことができました。

中でも印象に残っていることは、三年生で初めて主体的に運営したリーダー研修会です。能登高校の生徒を迎え、交流を深めながら分科会を実施し、農業クラブ活動の活性化について意見を交わしました。これまで何度も分科会を経験してきましたが、今回の研修会は最も完成度の高いものだったと感じています。意見交換だけでなく、ゲームなどを取り入れた交流が活発に行われ、三年生が中心となって会を運営したことで、自分たちの成長を強く実感する機会となりました。

三年次に校内会長として役員全体をまとめる立場となり、一つ一つの活動に対する責任の重さと緊張感をこれまで以上に意識するようになりました。そして、役員一人一人が高い意識を持ち、それぞれの役割を理解して行動していたことで、活動は円滑に進行しました。役割分担が明確であったことが、組織としての強さにつながっていたと感じています。

農業クラブ役員としての活動では、全員が主体的に役割を担い、自身の課題克服や得意分野の伸長を意識して取り組んできました。その中で私は、人前で話す力を身に付け、自分に自信を持てるようになりました。農業クラブで得た経験と学びは、今後の人生においても必ず生かせるものだと確信しています。これからも農業クラブが、多くの生徒にとって成長と挑戦の場であり続けることを願っています。

一味違う県連大会技術競技会



3年 佐野 優空

今年もやってきた。農業クラブ県連大会技術競技会が8月5日にありました。やはり本番では様々なアクシデントが付きものです。

大会当日から遡ること約1ヵ月前、平板測量競技に出場するにあたって、3年生チームは昨年のまま、2年生チームは3人＋補欠がすでに決まっていた。去年の県連大会では、私隊のチームにはまだ補欠もいなかったため、2年生が平板測量競技に少しでも興味を持ってくれたことに嬉しさを感じました。そして始まった練習では、なんと3年生が2年生にやり方やルールを教えていく形でした。今回の県連大会も去年同様の3年と2年が競い合う校内戦ですが、そのような形になったため、自分たちは何をどのように説明すれば正解なのかを悩みながら、練習に取り組みました。



本格的に練習を始めたのは7月に入ってからで、授業終わりの放課後や休日に集まり、平板測量の練習に励んでいました。もちろん屋外の活動なので暑いのですが、午後4時から行う練習が涼しいと思えるぐらい、休日の朝8時から行う練習がもの凄く暑かったです。測量するたびに腕や額から汗が吹き出するため、外業が終わるとみんなヘトヘトになっていました。そんな中でも、2年生は誰一人欠けることもなく、僕達や先生に質問したり、昼頃まで練習を続けたりして、とても偉いと感じました。そして迎えた本番当日は、練習ではあまり体験していない強めの風が吹いていました。2年も3年も練習成果を発揮しようと尽力しました。それでも、自分はペンを落とし、内業では書損

じや四捨五入のミスが発生してしまい、本番という場面がいかに凄く恐ろしいかを改めて実感しました。

この1ヵ月間は、自分達の平板測量技術を思い返すとともに、その技術を2年生に教え且つ一緒に練習に励んで来たため、2年生それぞれの成長を身近に感じることができた1ヵ月間でした。本番で実力を出し切ることの大変さ、目標を立てそれに向けて努力を重ね続ければ成長できることを体験できた後輩達のこれからの成長が楽しみになったのと同時に、自分も来るべき本番に向け、平板測量競技を通じて培ったことを忘れずに、努力を重ねていこうと心に誓いました。

文化祭を振り返って

2年 中村 月花

私は、今年の文化祭が昨年よりも楽しめたと思いました。1日目の芸能王では、去年と違って声出しが良くなりました。そのため、友人とともに盛り上がったし、皆楽しめていて良いステージだなと思いました。2日目は、大勢の外部の方がお客様として色々なものを買ってくれました。翠星高校の文化祭は他校とは違い、農産物をはじめ多くの販売物で賑わうため、お客様も十分楽しめていることがわかりました。

準備では、看板作りをしました。誰もさぼったりせずに、自分のすべきことをしっかりできていて、協力する力がすごくあるなあと思いました。時間が余った時は、宣伝用にアンパンマンキャラクターのお面をみんなで作りました。段ボールを型に切り抜いてからマジックで顔を描き、絵の具を塗りました。そのお面を1年生にあげたら、喜んでくれたことが嬉しかったです。また、当日の販売では、ミニバラがすぐに売り切れたと聞き、とても嬉しかったのを覚えています。

今年の文化祭は、みんながルールを守って楽しんでいたから、誰かが怒られているところを見ることもなく、とても充実した文化祭だったと思います。今回の文化祭では、協力する力とルールを守る大切さ、関わったことのない人とも関わってみる大切さなどを学びました。この2日間で話したことのない人達とも仲良くなって、今まで自分からあまり知ろうとしなかったことをちょっと後悔しました。クラスの仲がより深まった文化祭だったし、これからの学校生活に生かすことがいっぱいある文化祭だと思いました。来年は、今年よりもさらに楽しめて、先生も生徒も笑顔で終われるような文化祭にしたいです。

一粒のイチゴが教えてくれたこと
— 生徒と歩んだ、挑戦の日々 —

教諭 川端 伸

「農場でイチゴを育て、そのイチゴでジャムを作ろう。校内で六次産業化もできるはずだ！」谷前校長の“鶴の一声”によって、イチゴのプロジェク活動は始まりました。当時、食品科学コースから生物資源コースに異動して数年目だった私は、「イチゴジャムの製造自体は難しくない。何とかなるだろう」と軽い気持ちで引き受けました。そのことを周囲に話すと「イチゴは難しいですよ」、「よりによってイチゴですか」、「病気や害虫が多く薬剤散布が大変ですよ」と返ってくるのは否定的な意見ばかり。野菜栽培の経験が乏しかった私は、不安を募らせていきました。

令和5年10月、本校のガラス温室に4.5mの高設栽培キットを導入。栽培品種「章姫」45株の試験栽培を開始しましたが、何もかもが手探りの状態で収量も極めて少なく、果実の形も不揃いで、「一体、何を栽培しているのだろうか」と感じることもありました。そんな時、一緒に取り組んでいた生徒が、収穫した中で一番きれいな一粒を、「先生、食べてください」と差し出してくれました。普段は学校の農作物を口にすることの少ない私でしたが、その一口は、「あまっ！スーパーで販売されているものよりもおいしい！」と雷に打たれたかのような衝撃を受けました。このイチゴが安定して収穫できれば、「翠星高校の新たな魅力となり、生物資源コースの特色ある学びになるのではないか」と思うようになり、次第にイチゴ高設栽培に力を注ぐようになりました。



翌年には、文部科学省「高等学校DX加速化推進事業」(DXハイスクール)に認定され、本校のガラス温室の改修工事を行い、約100mの高設栽培キットや室

温を10℃以上に保つ大型ヒーター、根域を15℃以上に保つショウオンボイラ、LED電照などが整備されました。前年の反省を活かしながら、もう後戻りできないとの背水の陣で栽培品種「章姫」1000株の管理に取り組みましたが、定植時期の遅れ等により初期生育が不十分となり、促成栽培には至りませんでした。しかし、3月以降は収穫量が伸び、目標としていた総収量500kgを達成し、最終的には約535kgのイチゴを収穫することができました。収穫したイチゴのうち規格外となった約110kgは食品科学コースへ提供し、本校産イチゴを用いたジャムの製造に活用しました。これにより、校内における六次産業化を実現することができました。さらに、規格外果を活用した和菓子やジェラートの開発にも取り組み、コースの垣根を越えた探究的な学習活動へと発展しました。



今年度は、品種を極早生品種「かおり野」に切り替え、11月14日からの収穫に成功し、促成栽培を実現することができました。3月からは自家育苗にも挑戦します。この取り組みをまとめたプロジェクト発表では全国大会への出場を果たし、私にとっても7度目の挑戦で生徒とともに勝ち取った大きな成果となりました。

イチゴの高設栽培に取り組む中、私は一つの大きな気づきを得ました。それは、どのような状況においても「不可能」と決めているのは、環境や常識ではなく「自分自身」であるということです。軽い気持ちで始めた取り組みでしたが、生徒とともに真剣に栽培管理を続けた結果、本校のイチゴ栽培をきっかけに新規就農者が誕生するなど、活動は地域へと広がりました。

目標の達成を信じて行動し続けることの大切さを改めて実感するとともに、このような貴重な学びを得られる翠星高校は、「地域を支える人材育成」のトップランナーであると確信しています。今後は、「決して不可能なことはない」と信じ、石川県におけるイチゴ高設栽培モデルの確立や本校産イチゴを活用した150周年記念事業の記念品製作に向けて生徒とともに尽力していきます。

若者への和菓子の普及を目指して



教諭 金田 侑也

食品科学コース「和菓子部」では、地元和菓子店から「若者の和菓子離れや後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子普及を目的に活動しています。市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る」という新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を令和5年度から実施しています。3回目となる今年は、白山市地産地消課・地元和菓子店9店舗・イオンモール白山・道の駅めぐみ白山と協力し、「第3回敬老の日キャンペーン」を開催しました。今後は、全国展開を目指していきたいです。

また、地元和菓子店「御菓子司雅風堂」と連携し、「翠星産イチゴ」と「本校乳酸菌飲料ラクピス」を合わせたイチゴ大福（名称：イチゴイチエ）の協働開発を行いました。校内や店舗、イオンモール白山「和スイーツ祭」などで販売をし、地域の方々に対する地元食材の魅力の発信や和菓子の普及ができました。このキャンペーンの開催や和菓子の開発・販売などの取り組みは、生徒の努力と地域の方々のご協力があったからこそ成果に結びついたと考えています。さらに、第76回日本学校農業クラブ全国大会西関東大会プロジェクト発表会において、二年連続優秀賞を受賞することができました。今後も、生徒と共に地域との繋がりを大切にしながら和菓子の魅力を普及し、日本の伝統文化和菓子を守り続けていきたいです。

